

---

# イナズマ11

ザ・アドベンツ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

イナズマ11

### 【Nコード】

N6641V

### 【作者名】

ザ・アドベンツ

### 【あらすじ】

円堂守率いるイナズマジャパンが世界一になって1ヶ月後イナズマジャパンのメンバーは自分の中学校に戻りサッカーを楽しんでいます。そしてこれは円堂守の新たな物語である。

## オリキャラ設定

オリキャラその1

かんなすきあい

名前 神無月 愛

性別 女

特徴、瞳の色は薄い水色、髪の毛の色は濃いピンク、髪の毛は肩ぐらい、

設定、日本中で話題のスーパーアイドル

年齢は14歳、雷門中学に転校してきた中学二年生、クラスは円堂と同じ、アイドル登録名はラブリン

オリキャラその2

名前 杉村 メロディーヌ

性別 女

アメリカ人と日本人のハーフでドイツからの留学生、

まっすぐであきらめない気持ち強い円堂守に憧れている中学二年生。黒くて、ねこみみたいなお帽子がある帽子を被っている（たまごっちのメロディっちと同じ）世界で有名なバイオリニスト

## 第1話 開催 東京TVレース

雷門中でサッカーを楽しむ円堂たち、マネージャーの木野秋が休憩を入れ休んでいると響木監督が訪ねてきた

響木「お前達、面白い事話す。」

円堂「面白い事？」

響木「明後日から東京TVレースが開催する。出場者は、5人から11人だ。」

染岡「なんかすげー事が始まりそうだぜ。」

鬼道「響木監督まさか帝国学園も出るんですか。」

響木「ああ、帝国だけでなく御影専農や野生中も出る」

豪炎寺「フットボールフロンティア地区予選で出たチームが出場するのか。」

響木「そこで雷門メンバーの出場者は、鬼道、松野、豪炎寺、半田、土門、一之瀬、影野、風丸、染岡、闇野、円堂、以上だ。」

目金「良かった選ばれなくて。」

穴戸「全員二年生か。」

円堂「よし、みんな全力で走るぞお。」

メンバー「オ」

レース当日。

温子「守ー今日はテレビ局でレースするんでしょう。」

円堂「いけね、寝過ぎした。」

木野「あ、来た来た」

円堂「おい」

風丸「遅いぞ円堂」

鬼道「時間は間に合ったがな。」

円堂「フリーフリーつい寝過ぎしちゃって」

冬花「でも、これで全員揃いましたね。」

佐久間「鬼道」

鬼道「佐久間、源田

お前は、不動」

不動「言っただけじゃなかったか。俺帝国に転校してきたんだぜ。」

円堂「そうなんだ」

佐久間「俺たちだけじゃない地区予選で出たチームもいるぜ。」

夏未「なんか向こう騒がしいわね。」音無「夏未さん、見て下さい  
スーパーアイドルのラブリンがいますよ。」

ラブリン「みなさん、こんにちわ！今日はここ東京テレビ局で東京  
TVレースを行います。チャンネルはそのまま。」

栗松「やっぱりラブリンは最高でヤンス！！」

円堂「なあ、豪炎寺ラブリンでそんなにすごいのか？」

豪炎寺「お前、知らないのか？」

円堂「知らない！」

夏未「円堂くん、テレビ何見てるの！？」

円堂「まず、サッカーの試合だろ、ホイッスルに、」

半田「もういい」

豪炎寺「くすくす」

ラブリン「では、スタート前にインタビューします。ん！？」

ラブリンは円堂を見た。

ラブリン「オレンジのヘアバンドのあなた、ちょっといいですか。」

円堂「はい」

ラブリン「このレースでの一言ですが、出場での感想はいかがですか。」

## 第1話開催東京TVレース・・・？

円堂「出るからには優勝目指したいと思います。でもそれが無理でも目標のゴールに向かって走るだけです。」

ラブリン「目標のゴール？」

円堂「はい、ここにみんなは目標のゴールに向かって走るんだ。さあみんなゴールに向かってたて走るぞ。」

参加者

「「「お」「」「」」

ラブリン「すごい、今のかけ声でみなさんやる気満々これはすごいレースになります。そろそろレースが始まります。みなさん用意は良いですか？」

参加者「「「はい」「」」

ラブリン

「それではスタート

さあ始めました東京TVレース、先頭は！？雷門中の風丸くんです、これは早い。その後ろに円堂くんが続きます。さあこのレースの行方はどうなるのでしょうか、チャンネルはそのまま。」

## 第2話決着、東京TVレース

ラブリン「ええ、このレースはいろいろな種目が用意しています。あ、第1種目は、ドリブル突破です。この種目はサッカーボールで技を使うか使わないかの自由です。早速風丸くんが行きます。」

風丸「風神の舞改」 円堂「やるな、風丸俺も負けないぜ。ハアア、ドリア」

ラブリン「風丸くん円堂くん共に突破しました。」

風丸「やるな円堂」 円堂「へへ負けないぜ風丸。」

ラブリン「次来たのは帝国学園の佐久間くんです。」

佐久間「フツ」

ラブリン「佐久間くん見事な動きでかわしました。」

佐久間「活躍してるのは雷門だけじゃないぜ。」

ラブリン「ええこちらはシュートポイントです。こちらはピラミッドの形をしたたくさんのドラム缶をすべて倒して進ん行きます。」 豪炎寺「真ファイアトルネード。」

ガシャン

ラブリン「なんと一発で全て

のドラム缶を倒しました。」

染岡「やるじゃねーか豪炎寺、

だが俺だって真ドラゴンクラッシュ。」

ガシヤ

ラブリン「すごい豪炎寺くんに続き染岡くんも一発で全部倒しました。」 レースはいよいよ

終盤に差し掛かった、ラブリン「ええこちらゴールとなる商店街です。1番最初に来たのは雷門中の円堂くんです。」

少林「キャプテンが来た。」

夕香「頑張って」

そしてもう少しでゴールとゆう所でゴール近くの坂をトラックが走っていたそしたら

ガタツ ゴロゴロ

ラブリン「あーと、大きなタイヤが女の子にぶつかりそうです。」

円堂「あれは、夕香ちゃん」

ラブリン「円堂くんコースを外れました。」

夕香「お兄ちゃん」

円堂「真ゴッドバンド、うおおお」

ラブリン「円堂くん必死でタイヤを止めます、でもタイヤが大きすぎで抑えきれいていません、ここで帝国学園の源田くんが来ました。」

源田「円堂！？女の子を助けているのか！？任せろ。」

ラブリン「なんと源田くんが円堂くんの背中を支えて止めます。」

源田「女の子が離れた今だタイヤを離すぞ。」

円堂「ダメだ！」

源田「何！？」

円堂「後ろを見るこのタイヤゴールに向かつてる。だからこのタイヤここで倒すんだ！」

杉森「ロケットこぶし！」

円堂「杉森」

杉森「円堂、源田俺も支えるぞ！」

円堂、源田、杉森「おおお、トリプルディフェンス！！！」。ド  
ーン

ラブリン「た、倒しました。3人の力が1つになりタイヤを倒しました。」

円堂「よし、レースの続きだー！！」

ラブリン「ゴール！！1位は、円堂くん2位に源田くん、3位は杉森くんです。でも1番素晴らしいかたのは、3人の力が1つになつてところです」

壁山「キャプテン、おめでとうつス」

豪炎寺「円堂、夕香が助かったよ。」

円堂「ああ、俺の仲間の妹だからな。」 ラブリン「1位の円堂くん、おめでとつございます。」

円堂「ありがとう。」



### 第3話転校生はスーパーアイドル

???「ここが雷門中」

円堂「やべえ、遅刻だー、ま、間に合った!！」

木野「おはよう、円堂くん」

円堂「おはよう、秋」木野「ねえ、知ってる? 今日、転校生が来るらしいよ。」

円堂「転校生?」

豪炎寺「ああ、俺も聞いた。」

闇野「俺もだ。」

先生「ハ―イ、席に付け。今日は転校生を紹介するぞ、入りなさい。」

ガラッ

先生「では、自己紹介を。」

???「はい、神無月 愛です宜しくお願いします。」

男子生徒「「おお、かわいい」」

先生「席はそこで。」

神無月「はい。」

円堂「宜しくな、神無月。」

神無月「宜しくね。円堂くん。」

円堂「あれ? 何で俺の名前知ってたんだ?」

神無月「あ、そ、それは、「チラッ

豪炎寺「(なんだ?)」

神無月「先生、私、用事が出来たの帰ります。」

男子生徒「「ええ」」

神無月「これから宜しくお願いします。」

円堂「授業遣らずに帰ったよ。」

中本「ラブリン、急いで。今日は、ドラマの撮影やCDのCMのスケジュールがあるから。でもせっかくの登校日なのに。」

ラブリン「大丈夫。アイドルの仕事も頑張るから。それからありがとう、私がラブリンだって事黙ってくれて。」

中本「ええ、ラブリンだって事バレたら大騒ぎですもの。」

スタッフ「ラブリンさん、本番入ります。」

ラブリン「ハイ」

一方、雷門中

一之瀬「転校していきなり早退なんて、珍しいな。」

闇野「いくぜ円堂、俺の新技うおお」

円堂「いかりてっついV2、ぐあ」

バアン

闇野「よし」

目金「黒い剣で、ナグナロクと名づけしよう。」

円堂「すげーいいシュートだ、シャドウ。それにみんなも格段アップしてるぜ。この調子でいこうぜ。」

雷門イレブン「「「おお「「「

#### 第4話雷門イレブンぶつつけ生放送！？

今日は雷門中二年生は、テレビ局に見学しに行く日です。

少林「キャプテン、おはようございます。」 円堂「おはよう少林、穴戸。」

穴戸「今日キャプテンたちは、テレビ局に見学しに行くんですね。」

円堂「ああ」「おはよう」

豪炎寺「オウ、円堂」

木野「おはよう、円堂くんテレビ局の見学楽しみだね。」

円堂「神無月はまだ来てないのか！？」

闇野「今日は休みらしい。」

円堂「神無月が転校して5日はたつけど、途中で早退したり欠席したりするよな。」 木野「なんでだろう？」

先生「そろそろ行きますので支度して下さい。」

円堂たちはテレビ局にやってきました。

先生「クラスごとに分かれます。でもサッカー部はサッカー部で行動して下さい。」 あずま「サッカー部は部員同士か！？」

先生「では見学します。」

早速円堂たちはテレビ局の見学し、お笑い芸人やクイズ番組、時代劇の撮影風景を見て盛り上がっている。

大谷「あ、ラブリンよー！」

ラブリン「あ、円堂くんみんなも。あ、」 あずま「なんでラブリンが円堂のこと知ってたんだ？」

鬼道「忘れたのか？円堂は東京TVレースで会っている。」

あずま「あ、そっか」ラブリン「今日はなんでテレビ局に？」

円堂「俺たちテレビ局に見学しに来たんだ。」

ラブリン「（そっか、今日雷門中はテレビ局見学の日だったのね、すっかり忘れたわ！）」 「そうだ、これから私の生放送やるけど良

かつたら見てく？」

円堂「え？いいのか？」

ラブリン「もちろんよ」

男子生徒「「うおおラブリンの生放送だ」」

円堂「へえ、これがアイドルのステージか！」

ラブリン「まず生クリームを良くかき・・・混ぜ・・・t

」

バタッ

雷門生徒「ああ」

撮影監督「ラブリンちゃん、疲れが溜まっていたんだな、しかしこれから始める生放送どうするか！」 円堂「俺たちにやらせて下さい。」 撮影監督「・・・わかった、君たちにやらせてみるよ。」

」

円堂「みんな、この撮影に誘ってくれたラブリンのためにやるぞ」

雷門イレブン「「おお」」

#### 第4話 雷門イレブンぶっつけ生放送！？・・・・・・？

ラブリンが倒れて雷門イレブンが変わりに生放送することに。

円堂「ええ、ラブリンショーのご覧の皆様今日はラブリンが休みなので代わりに俺たちが出演します。」

搭子「円堂！？」

温子「守！？」

円堂「ではまず稲妻町今日一面から。ゲストは豪炎寺さん染岡さんの2名です。今日一面は、イケメン俳優の鳩野建さんと女優の星野亜美が付き合つてるとのことらしいけど！？」

豪炎寺「ああ、それ本当らしいぜ。」

円堂「ええ！！そうなのか！？」

染岡「それだけじゃねー、もう結婚してる噂がある。」

円堂「そうなんだ、次はミニドラマ、ザ、チアガールをお送りします。」

夏末「なんで私が！？・・・・・・、頑張つて私あなたを応援してるから、ファイト」

円堂「そして今日の5分間クッキング」

木野「今日の5分間クッキングでは星型ドーナツを作ります。」

鬼道「そいつは楽しみだ。」

木野「5分たつてはい完成。」

鬼道「これはうまそうだ。」

放送は雷門イレブンの力で順調に進んだ。円堂「最後に雷門 夏末さん、木野 秋さん、久遠 冬花さんがラブリンのヒット曲ラブリーハートを歌います。」

雷門イレブンのおかげで生放送は大成功になった。そして次の日

久遠「円堂」

円堂「はい、久遠監督」

久遠「お前に電話だ。」

円堂「誰からだろ！？もしもし！」

ラブリン「こんにちは円堂くん私ラブリンよ。」

円堂「ええ！！ラブリン、体はもういいの？」

ラブリン「うん！もうすっかり良くなったよ。それから昨日は本当にありがとう。これからラブリンショー遣るけど良かったら見てね。」

円堂「ああ！みんな練習休憩だ。（俺、ちょっとラブリンのファンになったかもしれない。）」

## 第5話 特別授業友達との絆

神無月家

神無月の父「愛はまだ寝てるのかな？」

神無月の母「いけない！そろそろ起こさないと学校に遅れちゃう。」

神無月「おはよう、パパ、ママ、今日は久しぶりに最後まで学校に  
いられるのね。」

雷門中

神無月「おはよう、木野さん」

木野「おはよう」

円堂「おはよう、神無月」

神無月「円堂くんおはよう」

先生「今日の午後の授業は、グループを組む特別授業を行います。  
グループの仲間と相談して調べたいことを調べて下さい。」そして  
午後

先生「では、クジでグループを決めます。」円堂「俺は3番か。」

木野「円堂くんは何番？」

円堂「3番だ。」

木野「私も3番よ。」円堂「一緒の班だな後3人か。」

豪炎寺「俺たちも3番だ。」

円堂「豪炎寺、シャドウ！」

闇野「どこでも一緒だな。」

木野「後1人ね。」

神無月「私も3番。」円堂「あ！神無月。」

木野「何調べる？」

豪炎寺「円堂、サッカー以外で頼む。」

円堂「やっぱりダメか！？」

木野「調べる気だったんだ。」

神無月「友達については、どうかな？」

円堂「友達について？」

神無月「うん、学校に幼なじみや転校生とかでいろんな絆が生まれてくるでしょう。だからこれを調べるのはどうかな？」

円堂「それはいいアイデアだぜ、神無月。よし、みんな友達についてを調べるぞあゝ。」

グループメンバー「「「おおゝ」」」



## 第5話特別授業友達との絆・・・？

特別授業で友達についてを調べることになった円堂グループ。円堂「ふゆっぺは友達についてどう思う？」

冬花「私とって友達は、仲良しことだと思います。」

円堂「俺たちが小学生の時も仲良かったよな。」

豪炎寺「染岡、お前は友達についてどう思う？」

染岡「俺にとって友達は信頼あることだな。」

豪炎寺「信頼か、尾刈斗中の試合を思い出すな。」

染岡「ああ、お前と信頼してできたのがドラゴントルネードだったな。」

円堂グループは順調に友達のデータを集めた。

闇野「友達のデータは順調だな。」

木野「見て、芸能人で友達になりたいの質問。ラブリンがダントツ1位よ。」

豪炎寺「他の男子もラブリンと友達になりたいらしいぜ。」

神無月「え！？」

今から神無月が雷門前中に転校する4ヶ月前。

東京都江戸川中

女子生徒A「ねえ知ってる？あの子ドラマに出るって！」

女子生徒B「だから最近学校休んでるのね。」

神無月「！？」

女子生徒A「いいわね、学校サボれて。」

神無月「」

中山「別の学校に転校したほうが良さそうね。この学校なら芸能人もたくさんいるし。」

神無月「ええ」

東京都沢谷中

神無月「私、急な仕事が、？あの、」

女子生徒C「勝手に行けば、いいわよねえ、売れ子は」

神無月「」

中山「今度の中学校は大丈夫かしら？」

神無月「中山さん」

中山「？」

神無月「私がラブリンだって事秘密にします。」

中山「ええ！？」

神無月「今まで私がラブリンだってゆってたからひどい事言われたでしょ。ウソをつくのはつらいけどみんなと友達になるためにはこれしかないの。」

中山「わかったわ、それがあなたの決心なら。」

そして今に至る。

円堂「どうした神無月？」

豪炎寺「何かの悩み事なら言ってみる。俺たち友達だからな。」

木野「私たち友達の前でウソや隠し事はダメだから。」

神無月「うん」

ブルルル

神無月「ええ？中山さん、なぜ？」

円堂「神無月？」

神無月「ごめんなさい！突然用事ができちゃって、本当にごめんなさい！」

豪炎寺「栗松「体育は疲れるでヤンス、ん？あれは神無月さんまだ学校終わってないのに？」テレビ局

撮影監督「はいラブリンちゃんお疲れ。」ラブリン「はい、お疲れさまでした。はあ」

中山「どうしたのラブリン？元気ないようだけどまた具合でも悪いの？」

ラブリン「そうじゃないの。私どうすればいいの？」

中山「どうしたの？友達について？」

ラブリン「ええ」

中山「悩む事ないわよ！」

ラブリン「え!？」

中山「だってラブリンは雷門中に転校して前より明るくなったんですもの。」

ラブリン「そうよね、ありがとう中山さん。」

中山「明日こそ仕事オフにしとくから。」ラブリン「はい」  
次の日

先生「次は3班発表どうぞ。」

円堂「俺たち3班は友達についてを調べました。友達はとてもすごい物だと思います。俺たちの心と心が一つになってる時こそ本当の友達になるんです。」

神無月「（本当の友達）」

## 第6話円堂の誕生日 ラブリンの告白

神無月の夢の中

木野「神無月さん、ドラマの撮影遣るから学校サボるみたいよ。」

大谷「いいわよねえ。」

神無月「円堂くん。」

円堂「話かけるな。」

神無月「え!!」

円堂「俺たちもう友達じゃないよ」

神無月「あ、はあ夢で良かった。」

雷門中

神無月「でも、私がラブリンだって事話しても円堂くんずっと友達でいてくれるかな。」

染岡「豪炎寺、シャドウ、ちょっと来てくれねーか。」

神無月「（染岡くん？）」

半田「雷門に転校して来たみんな知らないと思うけど再来週の日曜

日円堂の誕生日なんだ。」

鬼道「そうか再来週か。」

風丸「円堂はダークエンペラーズになった俺たちの目を覚まさせてくれた、だからその恩を返したいんだ。」

豪炎寺「恩を返す誕生会か。ああ、俺も賛成だ。」

音無「でも、場所はどうするんですか？」

風丸「それが問題なんだよな。」

土門「部室は？」

鬼道「少し狭くて無理だな」

壁山「いつも行く鉄塔どうっすつか？」

影野「風が吹いてゴミ飛んでくるし、外じゃ無理だよ」

神無月「私の家ならいいよ。」

風丸「神無月!?!いいのか、君の家じゃ迷惑じゃないのか？」

神無月「大丈夫、私の家カフェだから、ケーキや飾り付けはママにゆっておくから。」

夏末「神無月の家は、カフェだったの!？」

風丸「とりあえず場所は決まったな。」染岡「風丸」

風丸「なんだ染岡？」染岡「恩を返す誕生会だ、吹雪たちを誘うか。同じ雷門のユニフォームを着た仲間だ。」

風丸「ああ」

木野「神無月たくさんの人呼んでも大丈夫？」

神無月「うん、大丈夫よ。」

鬼道「だったら、帝国の仲間も誘うか。」

風丸「よし、来週行動開始だ。」

雷門イレブン「「おお」「」」

北海道、白恋中

白恋の先生「吹雪お客さんだぞ。」

吹雪「お客さん？誰ですか？」

白恋の先生「懐かしの友達だ。」

吹雪「懐かしの友達？」「あの人かな？僕に用のある人かな？」

???「ああ、用があるから来たんだぜ。」

吹雪「その声って!？」

染岡「久しぶりだな。吹雪」吹雪「染岡くん、なんで白恋中に!？」

染岡「訳ありでな。」吹雪「キャプテンの誕生会？」

染岡「おう、友に雷門のユニフォームを着た仲間としてお前にも来てもらいてーんだよ。」

吹雪「うん、僕も行くよキャプテンの誕生会に。」

京都、漫遊寺中

木暮「旋風陣、うっしっし」

音無「調子良さそうね。」

木暮「春菜!？キャプテンの誕生日!？よしあの人は人を信じる大切さを学ばせてくれた、その恩返しだ。」

大阪

リカ「円堂の誕生日か、ダーリンの頼みならえくで」

一ノ瀬「サンキュー、リカ」

福岡、陽花戸中

立向居「ええ！！円堂さんの誕生日ですか！！もちろん俺も行きま  
す。」

風丸「相変わらず円堂の事になると目の色が変わるな。」

沖縄、大海原中

綱海「円堂の誕生日俺も行くぜ。」

ライデン「俺もだ」

豪炎寺「ありがとう2人とも」

木戸川清修

西垣「ああ、俺も行くぜ。俺も円堂に借りがあるんだ。」

土門「頼むぜ、西垣。」

御影専農

杉森「もちろん俺も喜んで参加しよう。」半田「サンキュー、杉森。」

帝国学園

鬼道「円堂の誕生会、来てくれるか！？」

源田「よし、俺たち全員で行くぜ。」

不動「俺たちのキャプテンの誕生会に参加しない訳いかなーからな。」

寺門「行くぜ。」

帝国イレブン「「「おう」「」」

雷門中

鬼道「これで参加者は揃った」

木野「後は円堂くんの誕生日を待つだけ。」

## 第6話円堂の誕生日 ラブリンの告白………？

円堂の誕生日の前夜、神無月家

神無月「明日が円堂くんの誕生日」

P r r r r r

神無月「中本さん！？はい」

中本「ラブリン、ごめんなさい明日」

翌日

円堂「ここで俺の誕生日をやるのか！」

夏未「ええ、そうよ。後で神無月さんに感謝しなさい。」

円堂「もちろん。」

「？？？」「僕も参加しよう。円堂くん」

円堂「アフロデイ！？お前も参加してくれるのか！」

アフロデイ「ああ、君は神の力を使ってた僕の目を覚まさせてくれた、その恩を返しに来た。」

「？？？」「僕たちも参加していいかな？」

円堂「ヒロト、緑川、砂木沼！あと南雲と涼野！！」

ヒロト「円堂くんじつはジエネシスからもう1人」

鬼道「お前はウルビダ！？」

ウルビダ「私の本命は、八神玲名だ。」

ヒロト「玲名も僕たち同じ気持ちで来てくれたんだよ。」

円堂「ありがとう、玲名」

八神「フッ」

音無「キャプテン、カフェのテーブルに神無月さんからの手紙が！」

円堂「手紙？」

神無月からの手紙

「ごめんなさい、円堂くん私突然用事が出来たので来られないかもしれない。誕生日会始め下さい。神無月愛」

不動「んで、始めるのかいキャプテン？」

円堂「俺、神無月を待つよ。」

神無月の父、母「え!?!」

円堂「神無月は俺の誕生会のためにこのカフェを使わせてくれたんだ、だから待つよ。」

不動「まっこれが円堂守だよな。」

???「それでいいぞ守。」

円堂「あつ、じつ、じいちゃん、ロココ」

ロココ「久しぶり、守。」

神無月の父「あの子、コトオール代表リトルギガントのキャプテン、

ロココ ウルパ!」

ロココ「守、あっち。」

円堂「え? あっフィディオ!」

神無月の母「今度はイタリアの白い流星フィディオ アルデナよ!」

フィディオ「守、誕生会に来たよ。」

円堂「ありがとう、フィディオ」

フィディオ「みんな、来てくれ。」

円堂「え?」

ざっ

円堂「テレス、エドガー、マーク、ディラン、ロニー、ジョ、来てくれたのか。」

神無月の父「FFIで活躍したスター選手だ。」

財前総理「やあ円堂くん」

搭子「円堂、誕生おめでとう!」

円堂「財前総理に搭子!」神無月の父「総理大臣が来るなんて円堂くんすごいんだ。」

一方神無月 愛は

フットボールフロンティアスタジアム

チアガール「ファイト、ファイト、レッツゴー」

ラブリン「待ってね、円堂くん」

その夜



撮影監督「はい、お疲れ」

ラブリン「お疲れさまでした。」

中本「ラブリン、急いで。」

神無月「ごめんね、円堂くん。」

神無月のカフエ

神無月「もう、終わっちゃった。」

ガチャ

円堂「待ってたぜ、神無月。」

神無月「え？円堂くん、みんなもなんで？」

風丸「円堂の希望だ。」

神無月「ありがとう円堂くん、私、みんなに話さなきゃならないところがあるの。」

円堂「え？」神無月「私ラブリンは、本当はラブリンなの！」西垣「ラブリンって話題のスーパーアイドルか！？」

杉森「ああ、そうだが。」

神無月「隠していてごめんなさい、私前の中学校でまともに話が出る友達がいなかったの。だから円堂くんたちと友達になりたくて雷門中に入ったの、だから私がラブリンだって事黙ってれば友達でいてくれると思ってたのでもそれが逆に苦しくなって、でも苦しくなるなら私がラブリンだって事話たほうがいいと思っただの！」

木野「神無月さん」

豪炎寺「やはりな」

円堂「豪炎寺、お前知ってたのか！？」

豪炎寺「少しずつな」

土門「俺、全くしらなかった。」

豪炎寺「だが円堂、後はお前に任せる。」

円堂「え？俺が！？」豪炎寺「神無月は、お前の誕生日に告白して来た。だからお前が決めるんだ。」

神無月「今まで隠していて、本当にごめんなさい。」

円堂「神無月、顔上げなよ。」「俺、その事はどうでもいいと思う。」

「  
神無月「え？」

円堂「俺たち友達だろ、君がクラスメイトだとしてもスーパーアイドルだとしても友達って事に変わりはない。」

神無月「！」

豪炎寺「ああ、その通りだ円堂。」

鬼道「お前ならそう言うと思ったよ。」

壁山「キャプテンの言う通りッス」

栗松「俺たちは雷門の仲間でヤンス」

音無「水臭いですよ、神無月さん」

夏未「誰にでも秘密はあるものよ。」

木野「特に女の子はね。」

神無月「ううう」

円堂「みんな、神無月の秘密は、サッカーをやってる俺たちの秘密にしようぜ。」

参加者「「「おお」」」

神無月「いいの？」

円堂「ああ！」

中本「良かったわねラブリン」

神無月の母「本当にいいお友達ができて。」

神無月の父「円堂くんサイコー」

参加者「「「ハッピーバースデー円堂くん、円堂、円堂さん、守、キャプテン、守くん」」」

円堂「サンキューみんな」

## 第7話夢の共演 海賊の宝探し

雷門中

染岡「ドラゴンスレイヤーV3」

円堂「ゴッドキャッチG3」

一ノ瀬「ナイス円堂」

木野「ん！？あれは。」

音無「ラブリンのワゴン車のようですけど！？」

ラブリン「こんにちは、円堂くん」

円堂「よう神無、じゃなくてラブリン」

木野「気を付けてね、円堂くん。神無月さんがラブリンだって事は私たちの秘密だから。」

円堂「ああ、気を付けないとな。」

鬼道「それでなんの用でここに来た？」

ラブリン「次の土曜日、海賊の宝探しの撮影をやるの、そこで私のお供になる6人を集めてるの。それで私の推薦で雷門中に来たの。」

豪炎寺「だったら、俺たちの推薦は、円堂だな。」

円堂「ええ、俺が！？」響木「ほほー！円堂か。俺も推薦だな。」

円堂「響木監督、豪炎寺、ああ、俺、行くぜ。」

ラブリン「1人目決まりね。あとは東京も1校、北海道、沖縄、九州、大阪のお供ね。」

鬼道「東京のもう1校は俺が推薦した。」ラブリン「え？」

鬼道「そこは、帝国学園だ。」

帝国学園

佐久間「あれは、鬼道それにラブリン。」

源田「海賊の宝探しの撮影か。それで1人推薦しに来たのか。」鬼道「ああ、誰か1人選んでくれ。」

不動「だったら、俺は佐久間を選ばぜ。」

佐久間「俺が！？」

不動「ああ、鬼道の信頼が厚く円堂との信頼もあるからな。」

寺門「そうだな、俺も佐久間を推薦だ。」

佐久間「お前たち、ああ」

北海道

吹雪「僕が宝探しお供に!？」

ラブリン「ええ、染岡さんの推薦で吹雪くんを選んでくれって」

吹雪「うん、僕行くよ、キャプテンと共に。」

大阪

リカ「ダーリンがウチを!？」

ラブリン「一ノ瀬くんがリカさんって」

福岡

立向居「円堂さんと宝探し!!本当ですか!？」

ラブリン「円堂くんの推薦で立向居くんを選んだの。」

立向居「俺、絶対に行きます。」

沖縄

綱海「そりゃあすげーな。海賊の宝探し!！」

ラブリン「円堂くんの推薦です。」

綱海「オッシャー、ノツテきたぜ。」

そして土曜日、港

円堂「いよいよ出発だな。」

吹雪「うん、僕も早く行きたいよ。」

鬼道「佐久間、円堂の事頼んだぞ。」

佐久間「任せろ、鬼道。」

綱海「オッシャー、ノツテきたな、立向居。」

立向居「ハイ!俺も皆さんと新たな冒険に行くのが楽しみです。」

リカ「ダーリン、ウチの事思ってたってや。」

一ノ瀬「あ、ああ、待ってるよ。」

ラブリン「そろそろ出発します、船に乗って下さい。」

円堂「んじゃ、行って来るぜ。」

佐久間「出発したな円堂。」

円堂「ああ。」

日曜日

ラブリン「それじゃみんな、冒険用の服に着替えて。」

吹雪「本格的だね!」

円堂「いよいよ冒険の始まりだ、さあ、行こうぜ、宝探しの冒険へ。」

## 第8話冒険、宝を上回る物

ラブリンの頼みで宝探しの撮影にお供になった円堂たち

ラブリン「今日私たちは仲間と共に海賊が残した宝探しに来ました。」

佐久間「あの島のような。」

円堂「さあみんな、俺たちの冒険の始まりだ。行こうぜ！」

冒険者「「「おお」」」

そして島に上陸

立向居「大きい島ですね。」

リカ「いかにも何かありそうや。」

ラブリン「さあ、行きましょう。」

島を歩いて3時間後

綱海「お、あそこに洞窟があるぜ！」

ラブリン「あそこが海賊の宝が眠ってる洞窟です。」

吹雪「ここから宝探しのスタートだね。」円堂「よし、行くぜ。」

佐久間「中は思った以上に暗いな。」

円堂「ん!？」

吹雪「どうしたの、キャプテン?」円堂「なんか、すごい音が」

ガアアア

円堂「危ない!!みんな」

洞窟の外

撮影監督「た、大変だ!!洞窟が崩れた!!」

スタッフ「入口がふさがって入れないですよ!」

撮影監督「よし、別の所から入ろう。」

スタッフ「ハイ!」

洞窟の中

円堂「みんな、大丈夫か!？」

ラブリン「ええ、私は大丈夫よ。」

吹雪「みんな、無事みたいだね。」

佐久間「だが、入口がふさがってしまった、これでは出られないぞ。」

ラブリン「私が、みんなを誘ったから。」

綱海「んなこと言っても仕方がねー、入口がダメなら出口を探せばいいんじゃないか？」

円堂「綱海の言う通りだ最後まで希望を失ってわいけないんだ。」

ラブリン「円堂くん、綱海くん、みんな、うん」

吹雪「キャプテン、今は宝探しをやってる場合じゃない、みんなで悪い状況を乗り越えよう。」

希望を捨てず歩き続ける円堂たち

立向居「だいぶ歩きましたけど、何も変わりませんね。」

佐久間「ああ、だがこの先何か起こるか分からない気を付けろ。」

円堂「どわっ、！」

ラブリン「どうしたの？円堂くん」

円堂「何かに足踏いた。ん！？」

ラブリン「きゃあああ！！！」

綱海「ガ、ガイコツだ！！！」

吹雪「このガイコツ、海賊の服着てるけど！？」

佐久間「どうやら昔、海賊の宝を探しに来て出られなくなり、こうなっただけだな。」吹雪「でも僕たちはこうなる訳にはいかない。」

円堂「ああ、みんなと約束したんだ。必ず帰るって、だからこそあきらめてダメだ。」

立向居「円堂さん、あそこ奥に光が見えます！」

円堂「本当か！？立向居。」

「外が見える！」

綱海「だが、どうやってこの岩を？」

吹雪「そうだ！！確かみんなアイテムにサッカーボールがあるよ、僕たちの必殺技でこの岩を壊そう。」

佐久間「ん！？なんだ！？」

円堂「どうした！？佐久間」

佐久間「しっ！何か聞こえて。」

ゴロゴロ

綱海「げっ！！岩が転がってきやがった！！」

円堂「任せろ、真ゴッドハンド」

綱海「よし、やるぞ、ツナミブースト」

リカ「ローズスプラッシュ」

円堂「爆裂パンチ」ラブリン「きゃああ！！円堂「し、しまった。」

立向居「ムゲン・ザ・ハンドG5」

円堂「立向居！」

立向居「円堂さん、ラブリンさんは俺に任せて綱海さんたちと出口を開いて下さい」

円堂「でも」

立向「俺は大丈夫です、早く」

円堂「わかった、頼むぞ。立向居」

ラブリン「今度はかなり大きい岩が！」

立向居「絶対にラブリンさんを守ります、魔王・ザ・ハンド」

佐久間「あ！出口がかなり広くなった。」円堂「一気に行くぜ、み

んな、メガトンヘッドG3」

佐久間「皇帝ペンギン1号」

綱海「ザ・タイフーン」

吹雪「ウルフレジエンドG2」

リカ「通天閣シュート」

バーアン

円堂「今だ！！」

ハア ハア ハア

円堂「みんな、無事か！？」

佐久間「ああ」

撮影監督、スタッフ「オーイみんな、」

ラブリン「あ、監督」スタッフ「良かった、みんな無事みたいで。」



ガアアア

撮影監督「出口もふさがっちゃった。」

冒険者「」「プッあははは」「」

そして日本に戻って

司会者「それでラブリンさんたちは宝を見つけられなかったのですね。」吹雪「そうだ！！確かみんなアイテムにサッカーボールがあるよ、僕たちの必殺技でこの岩を壊そう。」

佐久間「ん！？なんだ！？」

円堂「どうした！？佐久間」

佐久間「しっ！何か聞こえて。」

ゴロゴロ

綱海「げっ！！岩が転がってきやがった！！」

円堂「任せろ、真ゴッドハンド」

綱海「よし、やるぞ、ツナミブースト」

リカ「ローズスプラッシュ」

円堂「爆裂パンチ」

ラブリン「きゃああー！！」

円堂「し、しまった。」

立向居「ムゲン・ザ・ハンド」

円堂「立向居！」

立向居「円堂さん、ラブリンさんは俺に任せて綱海さんたちと出口を開いて下さい」

円堂「でも」

立向「俺は大丈夫です、早く」

円堂「わかった、頼むぞ。立向居」

ラブリン「今度はかなり大きい岩が！」

立向居「絶対にラブリンさんを守ります、魔王・ザ・ハンド」

佐久間「あ！出口がかなり広くなった。」円堂「一気に行くぜ、みんな、メガトンヘッドG3」

佐久間「皇帝ペンギン1号」

綱海「ザ・タイフーン」

吹雪「ウルフレジェンドG2」

リカ「通天閣シュート」

バーアン

円堂「今だ!!」

ハア ハア ハア

円堂「みんな、無事か!？」

佐久間「ああ」

撮影監督、スタッフ「オーイみんな、」

ラブリン「あ、監督」スタッフ「良かった、みんな無事みたいで。」

ガアアア

撮影監督「 出口もふさがっちゃった。」

冒険者「」「 プッあははは」「」

そして日本に戻って

司会者「それでラブリンさんたちは宝を見つけられなかったのですね。」

ラブリン「ハイ、ても宝よりも素敵な物見つけられました。」司

会者「え?」

ラブリン「ね!」

円堂「ああ。」

佐久間「ウム。」

リカ「ええ。」

吹雪「うん。」

立向居「ハイ。」

綱海「おう。」

6人に新たな友情が芽生えた。

## オリキャラ設定      ? (前書き)

オリキャラその3

名前    ロン・スコピオン

特徴髪は金髪のオールバック。一筋の光も通さない暗い瞳

イナズマ王国《作者オリジナル国》の城の裏にある洞窟に住んでいた少年。裏閥族と言われている。気まぐれ好きの王様に国を追い出されて王様を憎みサッカーで復讐をするダークマップのキャプテンポジション、FW

必殺技    ダイナマイトシュート、ダークインパクト、ジャックスコ  
ーピオン

年齢    14歳

オリキャラその4

エミリア姫

特徴髪は薄茶色。ストレートのロング。目の色は黄緑色

王様の娘でイナズマ王国の姫

年齢    18歳

いい加減で気まぐれ好きの父親に手を焼いている。国を乗っ取っているダークマップに勝利してほしく円堂たちにイナズマ王国の未来を託す。

オリキャラその5

ルイ大王

イナズマ王国の王様王国の平和好きでとても気まぐれな王様  
年齢    50歳

## オリキャラ設定

？

オリキャラその1

名前 神無月 愛

かんなすきあい

性別 女

特徴、瞳の色は薄い水色、髪の毛の色は濃いピンク、髪の毛は肩ぐらい、

設定、日本中で話題のスーパーアイドル

年齢は14歳、雷門中学に転校してきた中学二年生、クラスは円堂と同じ、アイドル登録名はラブリン

オリキャラその2

名前 杉村 メロディーヌ

性別 女

アメリカ人と日本人のハーフでドイツからの留学生、

まっすぐであきらめない気持ち強い円堂守に憧れている中学二年生。黒くて、ねこみみたいな物がある帽子を被っていた（たまごっちのメロディっちと同じ）世界で有名なバイオリニスト

## 第9話 真実の石版 テルリン誕生

鬼道家

鬼道「父さん、それは？」

鬼道の父「この間仕事で撮った写真だ。」

鬼道「いろんな所が映っていますね。ん！？」

鬼道の父「どうした？」

鬼道「この写真に映ってるこれは？」

鬼道の父「これは、真実の石版だ。」

鬼道「真実の石版？」

鬼道の父「昔、どこかの外国で合ったらしい。」

雷門中

円堂「真実の石版！？」

鬼道「ああ、昨日父さんが撮った写真に映ってたんだ。」

豪炎寺「俺も聞いたことある。たしかかしかの森にあると。」

円堂「なあ、俺たちも行つて見ないか？」

かしかの森

円堂「この森に真実の石版があるのか。」

鬼道「ああ、この森にあるのはたしかだ。」

豪炎寺「円堂、あれは！？」鬼道「あれは！真実の石版がある岩場

！」

円堂「ここが、写真に映ってた石版の岩場」

豪炎寺「だが、真実の石版はないようだが？」

円堂「鬼道！？あれは！？」

ゴォォ

鬼道「あれは、真実の石版、何だこの風景は！？」

円堂「何だつたんだ！？今のは！？」

豪炎寺「わからない！？だが今の時代じゃなさそうだ。」

円堂「じゃあ、俺たちは過去の映像を見たのか！？」

鬼道「今のは一体!？」

東京の河川敷

ラブリン「ありがとう!これからも私を応援してね。」

中本「お疲れ様、ラブリン。次はドラマの撮影よ。」

ラブリン「ハイ、頑張ります。」

ピロロロロン

ラブリン「あ、パパからかしこ?あれ、誰からかしこ?受信メール!？」

その夜

ピロロロロン

神無月「また受信メール!？もしかして、故障!？明日直して上げるね、テルリン」

次の日

神無月「あゝ。ん!？また受信メール?何コレ」

円堂「なんか昨日見た風景が夢に出てきたんだ。」

豪炎寺「お前もか?」

円堂「豪炎寺も見たのか!？」

鬼道「俺もだ。」

円堂「俺たち、3人だけか!？」

神無月「あ、円堂くん」

円堂「神無月!？散歩か!？」

神無月「うん、ちよつと携帯を直しに。」

鬼道「携帯、壊れたのか?」

神無月「ううん、なんか変なメールがはいって」

円堂「変なメール?」神無月「コレよ。」

豪炎寺「これは!!真実の石版!？」

神無月「真実の石版!？」

真実の石版の事を話した。

神無月「じゃあ、私の携帯にそんな事が?」

豪炎寺「おそらくそうかも知れない。」

神無月「私をその真実の石版の所に連れてって。」

鬼道「えっ!？」

神無月「私、見てみたいの、その真実の石版」  
再びかしの森

円堂「あそこだ!」「ついたぜ。」

鬼道「だが、真実の石版がないぞ?」

円堂「オ、イ、真実の石版!また来たぞー!!」

神無月「あのメールはあなたが送った物なんですか!？」

豪炎寺「おかしい?昨日は確かに合ったはず。」

???「あれ、豪炎寺さん!？」

豪炎寺「虎丸!なぜここに?」虎丸「変なメールに呼ばれて。」

円堂「それって、真実の石版のコレか!？」

虎丸「あつ!ハイ、それです」

鬼道「だがなぜ、虎丸が?」

???「キャプテン?」

「円堂くん!」

円堂「飛鷹、ヒロト!?お前たちも真実の石版に!？」

飛鷹「ハイ、俺の携帯にこんなメールがはいつて。」

ヒロト「俺のもだ。」

???「鬼道!!」

鬼道「佐久間、寺門!お前たちも」

???「円堂くん。」

円堂「アフロディ!」

鬼道「世宇子中のデメテル、ヘラ!？」

円堂「アフロディたちもメールに?」

アフロディ「ああ、僕だけでなくデメテルにヘラもだ。」

ガアアア

円堂「あれは、真実の石版!!」

神無月「あれが!？」フウウ

円堂「うわっ!!」

豪炎寺「円堂！？あつ！」

選ばれし者「ああ」

神無月「うゝん、ここは！？あつ！円堂くん、しっかりして、円堂くん」

円堂「あつ、神無月。はつ、ここは俺が夢で見た森！！神無月、みんなは！？」

神無月「わからない！？私が目覚めたら、円堂くんが倒れてたから。」

円堂「そうか、豪炎寺、鬼道！！」

神無月「みんな、一体どこに！？」

「？？」「落ちこんでる時間はないよ、愛。」

神無月「えっ！？誰？」

「？？」「さあさあ、早くこんな所抜けよう。」

円堂「携帯が！？」

神無月「テルリンが口を動かしてしゃべってる！！」

突然真実の石版に吸い込まれた円堂たち、この先どうなる！？



## 第10話過去のイナズマ王国 登場ダークマップ

真実の石版に吸い込まれ過去に飛ばされた円堂たち

虎丸「豪炎寺さん、ここは一体どこなんでしょう!？」

豪炎寺「わからない、だが今は円堂たちを探すのが先だ。」

別の場所

デメテル「なあ、アフロディ、ここは本当に日本ではなさそうだ。」

アフロディ「そうだね。でもはぐれたみんなを探そう。」

一方、円堂たちは

神無月「でもなんでテルリンがしゃべれるの!？」

テルリン「私、バージョンアップしたのかも？」

神無月「それはないと思うよ。」

円堂「だがなぜ神無月の携帯が動いてしゃべれるようになったんだ!？俺の携帯はなんの変化も無いけど。」

神無月「一先ずここにいてもしかたないし、みんなを探しに行こう。」

「

とある城

エミリア姫「この国が乗つられるのも時間の問題かもしれませんが、一体どうすれば!？」

ルイ大王「ここは方法は1つ。」

エミリア姫「何か名案でも!」

ルイ大王「我々が逃げるんじゃない!」

エミリア姫「それでは、何の解決にならないのでは!」

ルイ大王「まあ、やつたて勝てる訳無い。」

城の中庭

エミリア姫「真実の石版、どうか私の願いを聞いて下さい、お父さまとても頼りなく私が望むのは選ばれし勇者だけ。お願いします。」  
ピロロロロロ

円堂「あっ!メールだ!」

神無月「テルリンもなってる！」

円堂「豪炎寺かもしれない」

テルリン「違うみたい。」

円堂「えっ！？じゃあ、誰から？」テルリン「選ばれし勇者様イナズマ王国を救って下さい。エミリア姫」

神無月「エミリア姫！？エミリア姫でっ、昔の人のはず。」

円堂「じゃあ、俺たちはタイムスリップしたてっことか！！」

神無月「でもこのメールの意味は一体！？」

円堂「神無月、あれを見る。」

神無月「あれは、お城！？」

円堂「みんな、あの城にいるかもしれない。行こうぜ、神無月、テルリン」

一方、豪炎寺たち

豪炎寺「あの城に円堂たちが来てるかもしれない。行くぞ、虎丸。」

虎丸「はい！豪炎寺さん。」

そして鬼道たち

寺門「鬼道、あそこに城が！」

佐久間「行こうぜ、鬼道」

鬼道「ああ、円堂たちが来てるかもな。」飛鷹「あの城にキャプテンが！」その頃、城では

兵士「王様」

ルイ大王「どうした？」

兵士「なんか、未来から来たと言ってた奇妙な2人組でして！」エミリア姫「未来から来た！？」

ルイ大王「まあ良い、通すが良い。」

そしてその2人組が来て

ルイ大王「そなたたちが未来から来たと申す者か？」

円堂、神無月「ハイ」ルイ大王「まず、レディーファーストからじゃ。名は何と申す！？」

神無月「神無月 愛と申します。」

ルイ大王「さあ、顔を上げてごらん。」

神無月「ハイ」

ルイ大王「ほお！かわいい顔だね」

神無月「あつ、ありがとうございます」

ルイ大王「んで、そちらの者は？」

円堂「円堂 守です。大好きな物は、サッカーです。」

エミリア姫「（サッカー？）」

ルイ大王「それで、何しに未来から？」

神無月「それは、メールで」

エミリア姫「メール？」

円堂「手紙みたいな物です。」

ルイ大王「それで、未来で何があるのかな。教えて、教えて」

エミリア姫「お父さま」

テルリン「コラー、真面目に聞きなさい、でないとお仕置きした  
やうから。」

ルイ大王「おお、ちつこくてかわいいの」

円堂「なんか話が進まないなあ。」

エミリア姫「円堂さん、神無月さん、よろしければ来て下さい。」

円堂、神無月「？」

エミリア姫「ここです。」

円堂「これは、真実の石版！！」

エミリア姫「やはり、あなたが私の願いで来てくれた選ばれし者な  
のですね。」

神無月「円堂くんが選ばれし者！？」

エミリア姫「はい、このイナズマ王国は、悪者に乗っ取られてしまっ  
んです。」

円堂「ええ！？」

神無月「なんてヒドイ事」

円堂「一体、誰が！？」エミリア姫「悪のグループ、ダークマップ  
です。」

円堂「ダークマップ!?」

神無月「闇の地図でつことですね。」

エミリア姫「ハイ、ダークマップは、ある球技でこの世界を乗っ取っているんです。」神無月「ある球技?」エミリア姫「それは、サッカーです。」

円堂、神無月「サッカー!!」

エミリア姫「ダークマップは、乗っ取る国の人たちと試合で勝つとその国を自分たちの物にしてしまいます。平気で人を倒したり、ケガさせたり。この国のサッカープレイヤーたちは、逃げてしまいました。だから私は真実の石版に頼んで選ばれし勇者様を呼んだんです。」神無月「だから、佐久間くんやアフロディくんのようなプレイヤーたちが来たのね!?!」

円堂「許せない。」

エミリア姫「えっ!?!」

円堂「サッカーでそんな悪い事に使うなんて、俺は絶対に許せない。」

神無月「円堂くん」

円堂「エミリア姫!」エミリア姫「ハイ!!」

円堂「話は分かりました。俺たちがダークマップと戦います。」エミリア姫「本当ですか!?!」

円堂「神無月、豪炎寺たちを探しに行こう。」

兵士「王様、また未来から来た者が3人も来ました。」

鬼道「なかなか良い城だ」

円堂「鬼道!」

鬼道「円堂、神無月」神無月「佐久間くんも寺門くんも無事だったのね。」

佐久間「ああ、豪炎寺たちは?」

神無月「一緒じゃなかったの。」

テルリン「大丈夫、他のみんなも無事よ。」鬼道「この携帯、確か神無月の!?!」

神無月「この世界に来て生き物になったの。」

寺門「まさかテルリンは、警察だったのか!？」

佐久間「そんな訳無いだろ、確かに似てるけど。」

???「円堂、円堂くん、キャプテン」

円堂「あつ、豪炎寺、虎丸、アフロディ、デメテル、ヘラ、ヒロト、

飛鷹!」

飛鷹「キャプテン、無事でしたか。」

円堂「みんな、来てくれ!」

中庭

ヒロト「要するに俺たちがこの国を救う勇者つて訳か!？」

円堂「俺はダークマップのサッカーが許せない。みんな、俺に力を貸してくれ!」

豪炎寺「円堂、俺たちがここにいるのは、エミリア姫に選ばれたからだ!」

円堂「豪炎寺」

虎丸「キャプテン、豪炎寺さん、俺も戦います。」

飛鷹「キャプテン、俺の命、キャプテンに預けてあります。」

鬼道「みんな同じ意志だ。」

円堂「サンキューみんな、絶対勝つぞ、ダークマップに」

選ばれし者「「おお」「」」

町の人「だつ、ダークマップだ」

ヘラ「何!？」

ヒロト「来たのか!」???「オラオラオラ、ルイ大王、出てこい。」

「

ルイ大王「わつ私になんの用だ!？」

???「どぼけるな、このイナズマ王国も俺たちダークマップが支配するぜ。」

円堂「待て!」

???「何だキサマ!？」エミリア姫「私が呼んだ選ばれし勇者様よ!」

???「こいつらが勇者！？肩腹痛てーぜ。こんなヤツらがこの俺、  
ロン・スコピオン様のいるダークマップと戦うのか！？」

円堂「俺はお前たちのサッカーが許せない。お前たちを倒しイナズ  
マ王国を救ってみせる。」

ロン「ほお、じゃあ俺たちサッカーでキサマらの潰してやるよ。ぜ  
つてー王様をサッカーボールの的にしてやるよ。」

鬼道「（なぜあんなに王様を憎むんだ！？）」

悪のグループ、ダークマップと試合することになった円堂たち。果  
たして勝つ事が出来るのか！？

## 第11話 対決 ダークマップと憎しみの過去

イナズマスタジアム

円堂「さあみんな、この試合はただの試合じゃない！」

鬼道「ああ、この国の未来が懸かってる事だ。」

円堂「勝つぞ！」

選ばれし者「「「オオ」」」

未来の戦士

F W

豪炎寺

虎丸

デメテル

M F

鬼道

アフロディ

佐久間

ヒロト

D F

寺門

飛鷹

ヘラ

G K

円堂

ダークマップ

F W

レノン

ロン

ライン

M F

ワイルズ

ジエイ

ディブ

D F

ピート

カン

バクラー

ケビン

G K

ゲープ

エミリア姫「(円堂さん、みなさんお願いします。)」

ロン「あんなヤツらに俺たちが倒せる訳が無い。」

ジュリー「さあ、始めました。実況はこの私ジュリーでお送りいたします。」

さて、我がイナズマ王国の懸けた戦い。まもなくキックオフです。」

ピイイイイイ

ジュリー「始めました。」

鬼道「デメテル！」

ロン「潰してやるよ。ピート、ライン」

ピート、ライン「オウ、うおお」

デメテル「ダッシュストーム！」

ピート、ライン「ぐああ！！」

ロン「なに！？」

ジュリー「何とダークマップのディフェンスを突破しました！！」

王国の人A「すごい」

王国の人B「これは、もしかしたら。勝てるぞ！」

ロン「たかが突破したくらいではしゃぎがって。」

デメテル「豪炎寺！」

豪炎寺「オウ、爆熱ストームG3」

ゲープ「なに！！」



円堂「よし！決まった。」

ゲープ「うわわわ、フツなぐんてな」  
バシンッ

豪炎寺「なっ！！」

虎丸「爆熱ストームを余裕で！」

ゲープ「未来はこんなシュートにびびってるのか。」

円堂「くっ！」

虎丸「タイガードライブ」

バシンッ

ヒロト「流星ブレードV3」

バシンッ

デメテル「うおおお、リフレクトバスター」

バシンッ

鬼道、佐久間「ツインブースト」

バシンッ

寺門「百烈ショット」

バシンッ

ジュリー「未来の戦士、シュートが決まりません。」

ゲープ「お前ら、そろそろ点取れよ。」

ロン「言われなくとも取ってやるよ。」

ジュリー「ついにダークマップの攻撃が始まりました！！」

ケビン「ワイルズ！」

鬼道「ヒロト、寺門」ヒロト、寺門「おお」

ワイルズ「フツ、カマイタチ」

ヒロト「ぐあ、なに！？」ジュリー「ダークマップの逆襲です。未

来は戦士のゴールに襲いかかります！」

ワイルズ「ロン、決める。」

ロン「ああ、くたばりな、ダイナマイトシュート！」

円堂「絶対に入れさせ無い。真ゴッドハンド！」

シュウウ

ロン「なに！？」

エミリア姫、神無月「「やった」」

円堂「いっけ」

鬼道「真イリユージョンボール、豪炎寺！」

豪炎寺「真爆熱スクリュー！」

ゲープ「さすがに素手じゃ無理だな。デビルファンゲ」  
ガアア

飛鷹「何だ！？今の技」

アフロディ「真ゴッドノウズ」

ゲープ「デビルファンゲ」

鬼道「皇帝ペンギン」

佐久間、寺門「2号」

ヘラ「デイバインアロー改」

虎丸「タイガー」

豪炎寺「ストーム」

ゲープ「デビルファンゲ」

神無月「なんて技なの」

ゲープ「ムダムダ、ロン」

ロン「今度こそ、ダークインパクト」

円堂「止めてみせる。マシン・ザ・ハンド」

ガシッ

ロン「くっ またしても」

ピイ、ピイ

ジュリー「ここで前半終了です。」

鬼道「思ったより強いな。」

円堂「ああ、だが俺たち負ける訳にはいかない。絶対に勝ってイナズマ王国を救うんだ！」

選ばれし勇者「「オウ」」

ロン「くそー、」

バクラー「まさかお前が点が取れないとはな。」

ロン「まぐれだ、ぜってー潰す。」  
ジユリー「後半戦が始まります、勝利を手にするのは、どちらのチームか!?!」

第11話 対決 ダークマップと憎しみの過去 ?

ジュリー「さあ、後半戦が始まります。先に1点を取るのはどちらのチームなのか!？」

ピイ

ロン「レノン」

レノン「パワーホイール!」

円堂「はああ、正義の鉄拳G5」  
ばああん

レノン「くそー、この技も。」

円堂「いけー、虎丸」

虎丸「行きます、グラディウスアーチ!」

ゲープ「次はこの技でいくか、シャドークロー」

スウ、バシ

虎丸「何!？」

ゲープ「ぬるいぬるい」

ヒロト「天空落とし」

ゲープ「シャドークロー」

スウ、バシ

ヒロト「くそー。」

ゲープ「カン」

カン「デイブ」

デイブ「やれ、ロン」

飛鷹「行かせるか、真空魔V3」

ロン「ああ!」

飛鷹「豪炎寺!」豪炎寺、虎丸、ヒロト「グラウンドファイアG2」

ゲープ「ほお、少しはマシな技があるんだな。なら、シャドーフアング」

豪炎寺「何!？」

ヒロト「何だあの必殺技は!？」

ゲープ「フツ、俺の究極の技シャドーファングだ。やれ、ワイルズ」  
ワイルズ「ジェイ」

ワイルズ、ジェイ「アナコンダアロー」

円堂「いかりのてっついV2」  
がん

ジェイ「チツ」

ヘラ「アフロディ」

アフロディ「ヘブンズタイム改」

ピート、カン「うわああ」

アフロディ「行くぞ、ゴッドブレイク」

ゲープ「シャドーファング」

ジュリー「未来の戦士、シュート何度も打ちます、しかし、の技が破れない。」

ライン「ミサイルショット」

円堂「真イジゲン・ザ・ハンド」

ロン「やろー」

円堂「こんなサッカーやって楽しいのか!ロン!」

ロン「何!？」

円堂「お前たちがやってるサッカーが間違ってる、こんなサッカーしたって楽しく無いだろ!」

ロン「うるさい!!お前らなんか、この国を追いつた俺たちの辛さが分かるか!」

豪炎寺「この国を追いつた!？」

鬼道「どういう事だ!？」

ロン「聞きたいみたいだな?いいだろ。俺たちはもともとイナズマ王国の住人だった!」

神無月「ダークマップが、イナズマ王国の住人!？」

テルリン「いったい、何があったの!？」

ロン「俺たちは、生まれた時から城の裏の洞窟に暮らしていた、俺

は、裏閻族と呼ばれていた。」「ルイ大王「裏閻族？あつ！」

ロン「すべては、あの気まぐれ王がいけなかった。あれは忘れもしない9年前」

9年前

ロン、5歳「楽しそうだな。」

ロンの母「ロン、何見てんの？」

ロン、5歳「母さん、僕もあの子たちとサッカーやりたい。」

ロンの母「ダメよ。」

ロン、5歳「なんでだよ！？なんでダメなの！？」

ロンの母「王様の気まぐれよ。」

5カ月後

ロン、5歳「母さん、しつかり。」

ロンの母「ロン、元気で」

ガクッ

ロン、5歳「母さーん！」「母さんが死んで僕は1人ぼっち、僕はどうすれば、ん？」

ロン「母さんを失って、その時見つけたのが。」

ロン、5歳「サッカーボールだ！」「バシッ

ロン「初めてボールを蹴った時はとても楽しかった、そして俺の前に現れたのは、ゲープたちだ。」

ロン、5歳「みんな、サッカーやろー」

ロン「だが」

ルイ大王、41歳「裏閻族を追い出すのだ。」

兵士「裏閻族、お前たちを追放する。」

ロン、5歳「何で僕たちが出て行かなきゃらないの！？」

ルイ大王、41歳「お前たちがサッカーやってるからじゃ。」

兵士「出て行けー」

ロン「俺たちがサッカーやってはいけないのかよ。だったら、俺たちがサッカーで復讐する。」

そして、現在

ロン「そして俺たち、ダークマップが誕生した訳だ！」

エミリア姫「お父さま、なぜサッカー楽しんでたダークマップを追い出したのですか!？」

ルイ大王「それは、私の気まぐれで。」

エミリア姫「その気まぐれでこんな事になったんですよ!」

テルリン「ひどい王様」

円堂「だがなぜ他の国を襲ったんだ!？」

ロン「この国に恐怖を与える為だ。」

円堂「他の国やこの国をサッカーで襲うなんて。」

ロン「うるさい、お前たちに俺たちの9年前の過去が分かるか!」

円堂「ロン」「(そうか、ロンたちはずっと苦しんでいたんだ!あの頃の楽しいサッカーを奪われて昔の自分を失ったんだ!)」  
パンツ

ロン「ん?」

円堂「こい、ロン!お前の辛さ俺が受け止める」

ロン「なんだと、コイツ、俺をバカにしているのか!」

バシッ

円堂「ドンドン打ってこい!」

ロン「このっ」

ルイ大王「何やってるんだ彼は!？相手にボールを渡して!」

神無月「円堂くん、ダークマップの辛さを分かち合っているんです。」

「

エミリア姫「え?そんな事が出来るのですか!？」

神無月「円堂くんなら出来るんです。」

バシッ

円堂「ハアハアさあこい、お前の辛さこんなもんじゃないはずだ!」

ロン「だまれ!うおおお!!」

鬼道「何だ!？」

ロン「くたばれ!ジャックスコーピオン!」円堂「このシュート、止める!はああ、ゴッドキヤッチG3うおおお」

しゅううう

ロン「なっ!?!」

レノン「なに!?!」

ジュリー「止めた、円堂くん、ジャックスコーピオンを止めました!」

ルイ大王「すごいぞお円堂くん!ところでエミリア姫、残った時間は?」

エミリア姫「あつ!あと3分しかありません!」

ルイ大王「仕方ない、彼らには延長戦で頑張ってもらうしか!」

神無月「延長戦は必要無いと思います。円堂くん、やるかもしれない。」

エミリア姫「やるって何を?」

円堂「よし、行くぞ!」

ルイ大王「え?」

エミリア姫「え?」

王国の人たち「「ええ!?!」」

ジュリー「何と円堂くんオーバーラップ、ドリブルで上がっていた

!」

ロン「なっ、何だと!?!」

ルイ大王「ゴールキーパーがオーバーラップって!?!」

エミリア姫「これではゴールがから空きに!」神無月「これが円堂くんのサッカーです。」

エミリア姫、テルリン「え!?!」

神無月「円堂くんは負けてる時、時間が無い時にやるんです。」エ

ミリア姫「それではゴールが。」

神無月「わかっています。でも私は信じています、円堂くんたちならやってくれるって事を。」

エミリア姫「神無月さん。」

ロン「ヤロー、うおおおお、行かすか!」

円堂「くう!」



ロン「お前らに、俺たちの過去の辛さが分かる訳が無い。」

円堂「いや、分かる。」

ロン「なに!？」

円堂「お前達の時代に親を亡くした悲しみ、王への怒りも分かる。

だが、サッカーで悪い事してるお前たちに負ける訳にはいかないんだ! たあ」ロン「ぐあ、なんてパワーだ!？」円堂「鬼道、豪炎寺」鬼道「イナズマブレイクV2」

ゲープ「シャドーフアング、うつ!？ぐわわわ!!」

ピイイイイイ

ジュリー「ゴッ! ゴール! 何と、今まで1点も捕れなかったゲープからついに1点、これは希望の1点が捕れました!」

ロン「そっ! そんな!？」

ピイ、ピイ、ピイ

ジュリー「ここで試合終了!! 勝つてのは未来の戦士、イナズマ王国は救われました!」

王国の人たち「「うおお、わ」」

ロン「行くぞ!」

ワイルズ「ロン!？」

円堂「待てよ、ロン」

ロン「なんだよ!」

円堂「本当は、お前も本当のサッカーがやりたいはずだ、思い出せお前たちが初めてボールを蹴った時を。」ロン「(本当のサッカー!？　　そういえば初めてボール蹴った時はとても楽しかった、母さんを亡くした時も忘れるくらいに。だが、あの王が」

(お前たちの辛さ俺が受け止める)

ロン「はあ! 円堂!？　　そうか。あいつ、俺たちの過去分かち合っために!　　フッ、なあ円堂!？」

円堂「ん?」

ロン「人間は、変わる事が出来るよな!？」

円堂「え!？」

ロン「やっぱり俺たちじゃ、変わる事が出来ないのか！」

円堂「変わりたい気持ちがあればいつだって変わる事が出来る！」

ロン「そうか、なあ円堂。もう1回試合やらないか？」

円堂「え！？」

ロン「これは国を乗っ取るための試合じゃない、俺たちがあの頃に戻れたための試合だ！！」

円堂「よし、みんな、やるぞ。」

選手たち「「オオ」「」」

豪炎寺「はあああ！！」

ゲープ「うおお！！」

バシッ

ロン「ナイス、ゲープ！」

ゲープ「へへ、俺もいくぞ！」

ジュリー「なんとゴールキーパー、ゲープオーバーラップ！！」

円堂「だった俺も」

ジュリー「また円堂くん、オーバーラップです。」

テルリン「ゴールキーパーのいないサッカーなんて。」

神無月「聞いた事無いけど。」

エミリア姫「でも、楽しそうです。」

ルイ大王「え？」

エミリア姫「見て下さいお父さま、ダークマップの顔を。あの憎しみの顔してたダークマップが、あんな楽しそうにサッカーをしています。」

ロン「いくぞ円堂！」

円堂「こい、ロン」

ロン「（円堂、俺、思い出したよ。サッカーはみんなで戦う楽しい物だって）はあ！」シュー

円堂「フッ、いいシュートだ、ロン」

ピッピッピッピィィィィ

ロン「ありがとう、円堂。お前たちのおかげで本当のサッカーと自

分を取り戻せる事ができた。」

円堂「ああ、だが取り戻せる事できたのは、自分の力だ!」

ルイ大王「ダークマップの諸君」

ロン「ルイ大王!」円堂「まさか!待って下さい、王様!ロンたちはせつかく本当のサッカーと自分を取り戻せたのに。」

エミリア姫「お父さま、円堂さんの言うとおりです!」

ルイ大王「私は誰も処刑に言うておらん。」

エミリア姫「えっ?」ルイ大王「こうなったのは私のせいだ、私が気まぐれだからこうなったのだ。」

ロン「ルイ大王。」

ルイ大王「ダークマップの諸君、良かったらまたイナズマ王国の住人にならんか?」

ロン「本当ですか!?王様」

ルイ大王「あつ、ありがとうございます!」

その夜の城

ルイ大王「君たちの勇姿は本当に素晴らしいかった」

選ばれし勇者「「はい、ありがとうございます!」「スウ

円堂「あれは!真実の石版!」

スウウ

円堂たち「「うはああ!」「」

ロン「円堂!」

エミリア姫「元の時代に戻ったみたいですな。」

ロン「もう少し、あいつとサッカーやりたかったな。」

エミリア姫「ええ、そうですね。」

元の時代

円堂「ここは!」

アフロディ「どうやら元の時代に戻ったみたいだね。」

ヒロト「なんか不思議だったね。」

ピロロロン

テルリン「あつ、エミリア姫からメールだわ!」

神無月「読んで！」

テルリン「読むよ。勇者様、イナズマ王国を救っていただき本当に  
ありがとうございます、あなた達のご恩は忘れません。」

## 第12話留学 ドイツの天才バイオリニスト

河川敷の練習場

半田「真ローリングキック」

円堂「真熱血パンチ」

ガンッ

半田「あっ！」

木野「みんな、休憩時間よ。」

半田「よし、決めた！」

円堂「どうしたんだ半田！？」

半田「俺も新技を作るぞ！」

染岡「ほお、やる気満々だな！」

テルリン「相変わらず熱いね。」

音無「あっ！神無月さん！こんにちは。」

壁山「仕事の帰りツスカ？」

神無月「仕事と言うより、打ち合わせだったから。」

穴戸「新しい仕事が入ったんですか！？」

神無月「うん、確か日本に来る杉村メロディーヌのインタビューだったかな。」

夏末「杉村メロディーヌですって！？」

円堂「なんだ夏末、知ってるのか？」

夏末「円堂くん、やっぱり知らないのね。」

松野「杉村メロディーヌは世界で有名なバイオリニストだよ。」

円堂「へえ、そんなにすごいんだ。それでいつ来るんだ？」

神無月「今週の水曜日だよ。」

音無「今週ですか！？」

円堂「どんなヤツなんだろう。」

そして水曜日

関東空港

カメラマンA「おーい、来たぞ!!」

カメラマンB「あの子が天才バイオリニストの杉村メロディー又か!?」

メロディー又「ここが日本、こんなに人が来るなんてミィは嬉しい。

」

雷門中

円堂「おはよー、神無月は休みか?」

木野「円堂くん、忘れたの? 神無月さんはインタビューで休みよ。」

円堂「あっ! 忘れてた」テレビ局に向かう車

運転手「もう少しでテレビ局です。」

メロディー又「もし、うまくいけばあの人に会えるかな?」

運転手「あの人?」

メロディー又「会った事無いからわからないの、でもミィにとって会いたい人なの。」

テレビ局

ラブリン「もうすぐだと思うけど?」

ブロロオオオオ

ラブリン「あっ! あの人が杉村メロディー又さん。あの。」

メロディー又「ん?」

ラブリン「初めまして、ラブリンです。」

メロディー又「よろしく。」

夕方 豪炎寺の家

夕香「あっ、お兄ちゃんお帰りなさい。これからラブリンの番組が始まるよ。一緒に見よう。」

豪炎寺「ああ。」ラブリン「こんにちは、今日は日本に来たバイオリニスト、杉村メロディー又さんが来ています。よろしく願いします。」

メロディー又「杉村メロディー又です、ヨロシク。」

ラブリン「早速ですが、日本に来てどう思ってますか!?」

メロディー又「日本の事よくわからないけどドイツみたいがいい所

だと聞いています。」

メロディー又への質問もいよいよ最後になった

ラブリン「では最後に何か言いたい事がありますか？」

メロディー又「言いたい事？ん、じゃあ一つだけ。」

ラブリン「どうぞ。」

メロディー又「ミーには憧れている男の人がいるの。」

ラブリン「憧れている男の人！？バイオリニストですか？」メロディー又「うん、その人サッカーやってた、でもミーが憧れている男の人はとてもまっすぐに諦めない気持ちが強くて物事深く考え無い男の人だった。」

ラブリン「いつから憧れるようになったんですか！？」

メロディー又「確かあれはミーがドイツでバイオリンの予選で受かった後のことだよ。やっとミーが立ちたかった舞台上に上がれるのにあまりの緊張でうまく引く事が出来なくなったのだから諦めようとしてテレビをかけたのしたら日本の番組で、あれ！？あのサッカーの大会なんだたかな！？確か、フット・・・何だったかな？」ラブリン「それって、フットボールフロンティアの事？」メロディー又「あつ！それぞれ、そのフットボールフロンティアって大会で！確かあの人、かみなりかど中の人だったかな？」

ラブリン「かみなりかど？」

メロディー又「対戦相手は、せんはねやまと対戦してた時」

ラブリン「せんはねやま？」

メロディー又「残り時間少なく1対0で負けていてかみなりかどのチームは諦めていたけど、その人がこう言ったんだ！」

ラブリン「なんて言ったんですか！？」

メロディー又「俺たちの本当の必殺技は最後まで諦めない気持ちなんだ！って！」

豪炎寺「（今のセリフ、確か）」

メロディー又「その後、諦めなかったからここまで来られたんだろ

！諦めたらそこで終わりなんだ！この言葉でミィは決心したの！」

ラブリン「決心？」

メロディー又「諦めないって！」

豪炎寺「（諦めない気持ち、あのセリフ、間違い無い！）」

ラブリン「その懂れている男の人、会った事無いんですよね？」メ

ロディー又「ええ、会った事無いよ。」

ラブリン「特徴は覚えていますか！？」

メロディー又「確か、オレンジのバンダナしてた。」

ラブリン「オレンジのバンダナ？」

メロディー又「うゝん、バンダナと言うよりヘアーバンドだったかな、後髪型は両サイドにサメのヒレって感じな。」

ラブリン「サメのヒレ？ヘアーバンド？はっ！」

メロディー又「名前が分かればあんまり苦労しないのに。」

ラブリン「私、その人知ってる。」

メロディー又「えっ！？本当にその人知ってるの！？」

ラブリン「ええ、その男の人、円堂守と言って、雷門中サッカー部のキャプテンよ」

メロディー又「円堂守、雷門中？」

ラブリン「あっ！さっき言ってたかみなりかどって、雷門中の事ですね。後言ってたせんはねやまは千羽山中の事ね！」

メロディー又「後、大会決勝であればよく中と。」

ラブリン「世宇子中ですね。」

メロディー又「最初は3対0で負けていてボロボロなのに諦めず何度も立ち上がり逆転勝ちして優勝したの！やっぱり大切なのは、諦めない事だって。」

ラブリン「ありがとうございました、それではまたお会いしましょう、さようなら」

控え室

中本「ラブリン、お疲れ様。驚きだったわね、バイオリニストの懂れている人が円堂くんなんて！」



神無月「でも分かるな。」

中本「えっ？」

神無月「私も、どんな時でも笑顔になれる円堂くんに憧れるから。」  
テレビ局の外

メロディー又「ヘイ、ラブリン」

神無月「んっ!？」

メロディー又「ラブリン」

神無月「しゅー!!今は神無月愛だから!」

メロディー又「じゃあ、愛って呼んでいいかな？」

神無月「いいよ」

テルリン「ちなみに私はテルリン」

メロディー又「ワオ。しゃべる携帯電話」

神無月「それで、何か用なの？」

メロディー又「あっ!そうだ、ユーは円堂守くんの家知ってる?」

神無月「知ってるけど、行きたいの?」

メロディー又「イエス」

住宅街

メロディー又「この辺に円堂守くんの家があるね。」

神無月「うん」

???「多分円堂はいないぜ。」

メロディー又「誰?」神無月「豪炎寺くん、半田くん!」

メロディー又「知り合い!？」

神無月「円堂くんと同じ、雷門中サッカー部の仲間よ。」

豪炎寺「よろしく。テレビ、見たぜ。」

半田「まさか円堂に憧れているとは思わなかったよ。」

神無月「豪炎寺くん、円堂くん家にいないってどう言う事?」

豪炎寺「おそらく円堂は、あそこだ。」

メロディー又「あそこ?」

鉄塔

半田「ここだよ。」

神無月「ここ！？よく見るけど、ここに円堂くんがいるの？」

豪炎寺「ここは円堂がサッカーの特訓をする所だ。」

メロディー又「円堂守くんがここに！」

半田「あれ！？円堂、まだ来てないのか？」

メロディー又「あの木にぶら下がってるタイヤは？」

豪炎寺「あれは、円堂がキーパーの練習をするためのタイヤだ。それを押して止めるんだ！」

メロディー又「こんな風に？それ！」

半田「そうそう、って危ない！それは円堂しか　　！！」

メロディー又「ウワアアア！！」

バシイイン

メロディー又「んっ！？あっ！」

「？？？大丈夫か！？」

メロディー又「う、うん。」

半田「円堂！」

メロディー又「えっ！？ユーが円堂守くん！？」

円堂「ああ、君がメロディー又だな！」

メロディー又「うん、ミーは杉村メロディー又。円堂守くん、会えて嬉しい。」

円堂「そうだ、せっかく来たんだ。神無月もテルリンも初めてここに来たんだろ！？」

神無月「うん？」

テルリン「それがどうかしたの？」

円堂「いいから来なつて。」

鉄塔の上

メロディー又「ウォー！、イツ・ア・ビューティフル！」

神無月「キレイ、こんな所にいい場所が有ったなんて！」

円堂「俺のお気に入りの場所なんだ！さて。」

神無月「もう降りるの？」

円堂「ああ、半田の新技の特訓に付き合いするんだ。」

メロディーヌ「日本、そして円堂守くん、なんか楽しい事になりそう。フフッ」

**第12話留学 ドイツの天才バイオリニスト（後書き）**

**次回予告**

テレビで杉村メロディーヌと円堂守が共演！

次回 第13話生中継再び円堂とメロディーヌ

### 第13話 生中継再び 円堂とメロディーヌ

金曜日 雷門中放課後

半田「いくぞ円堂、これが俺の新技だ！」

円堂「こい！半田！」

半田「ローリンググクリムゾン」

円堂「真イジゲン・ザ・バンド」

パリーン

半田「よし！」

壁山「すごいッス！」

円堂「すげー！やったな、半田！」

半田「おう！だがもっと強くなるぜ。」

一方 神無月家

ブルルル

神無月「はい、神無月です。」

撮影監督「やあ、愛ちゃん。」

神無月「あっ！監督、どうしたんですか？」

撮影監督「今度の日曜日、ラブリンの杉村メロディーヌに聞いてみよう、と言う番組をやるんだけどメロディーヌちゃんに頼んでくれない？」

神無月「はい、わかりました。」

撮影監督「後もう1人ゲストを誘ってくれない？」

神無月「もう1人のゲスト？」

撮影監督「誰でもいいんだけど、出来ればメロディーヌちゃんにふさわしい人で頼むよ、よろしく。」

神無月「メロディーヌさんにふさわしい人？ちよつとメロディーヌさんの所に行つてきます。」

神無月の母「愛、メロディーヌちゃんの所に行くならこれを渡してきて。」

神無月「これは？」

神無月の母「さつき焼いたクッキーよ、仲良く食べてね。」

神無月「ありがとう、ママ。」

幼稚園近く

神無月「確か、この辺のマンションに住んでるはず。んっ!？」

バイオリンの音色

神無月「この音色、確か。」パチパチパチパチ

神無月「やっぱりメロディー又さんのバイオリンの音色ね。」

メロディー又「愛？明後日にミーの生放送を!？」

神無月「うん、後ゲストも出すの。」

メロディー又「OK、ミーの番組なら喜んで出るよ。」

神無月「ありがとう、メロディー又さん」

メロディー又「メロディー又でいいよ。」

神無月「・・・うん、メロディー又」

テルリン「後はゲストは誰にするか、問題よね。」

神無月「そうね、言いたい誰をゲストにすればいいのかな？」

テルリン「いつその事、円堂くんになれば。」

神無月「テルリン、さすがにそれは。」

メロディー又「えっ!？円堂くんを出すの!？ミーも賛成!！」

神無月「あっ!え」と!

神無月家

テルリン「ごめんなさい、冗談のつもりだったのに。」

神無月「まああの時は仕方なかったけど、どうしよう。」

神無月の母「どうしたの、愛、テルリン？」

神無月「あつまママ、実は。」

神無月は母に訳を話した

神無月の母「なるほどね、ゲストは円堂くんと言ってメロディー又ちゃんが喜んで言えなくなったのね。」

神無月「どうすればいいの!？」

神無月の母「直接、円堂くんに頼んでみたら。」

神無月「えっ!？」

神無月の母「円堂くん、サッカー部のキャプテンだし、きっと大丈夫よ。」

円堂家

温子「守、愛ちゃんから電話よ!」

円堂「神無月から!？もしもし?」神無月「あっ!円堂くん、悪いけど私の家に来てくれない?話したい事があるの。」

円堂「話したい事?今じゃダメなのか!？」

神無月「ダメかな?」円堂「いいけど。」

神無月「本当!ありがとう!家で待つてるから。」

神無月の家

円堂「こんばんは」

神無月の母「あらっ!円堂くん」

円堂「娘さんの愛さんいますか?」

神無月「あっ!円堂くん、来てくれたんだ!ありがとう。」

円堂「それで話したい事って?」

神無月「明後日の日曜日、生放送やるんだけど、お願い!円堂くん、ゲストになって!」

円堂「えっ!？俺がゲストに!？なんて番組だ?」

神無月「ラブリンの杉村メロディー又に聞いてみよう、て言う番組だよ。ダメかな?」

円堂「・・・わかった、いいぜ、神無月!」

神無月「えっ、本当に引き受けてくれるの!？」

円堂「ああ、日曜日練習休みだからな。」

神無月「ありがとう!円堂くん、明後日迎えに行くから。後服装は明日テルリンが知らせ行くからね。」

円堂「ああ、頼むぜ。」

第13話 生中継再び 円堂とメロディーヌ ?

土曜日 サッカー部部室

1年生「「テレビのゲストオオ!?」」

円堂「ああ、昨日神無月に頼まれたんだ!」

風丸「何時やるんだ?」

円堂「明日だよ。」

影野「いきなりな話だね。」

トントン

木野「ハ〜イ、あれ?誰もいない?」

テルリン「此处だよ」

木野「あつ!テルリン、ごめんね!気がつかなくて。」

テルリン「円堂くん、明日の服装は自分らしい格好で来て、だつて。」

円堂「俺らしい?」

豪炎寺「だったら円堂は、ユニフォームの方がいいんじゃないのか?」

冬花「そうですね。守くんはユニフォームの方が守くんらしいですね。」

円堂「よし、決まりだ!神無月に伝えてくれ。」

テルリン「了解!」円堂「さあ、明日頑張るぞ!」

日曜日の朝 円堂家

温子「守、起きなさい!もうすぐ迎えが来るわよ!」

円堂「いけね、もう少しで神無月が迎えに来るんだ!」

温子「全く、相変わらずなんだから、メロディー又ちゃん、よく守に憧れたものよね。」

広志「はっはっは、それだけ守がすごい事した証だよ。」

温子「そうね。」

ピンポン



温子「ハイ」

ラブリン「おはようございます、円堂くんのお母さん」

温子「あらっ、愛ちゃん」

ラブリン「しゅー！今はラブリンですから！」

温子「あらっ！ごめんなさい。」

ラブリン「息子さんは？」

円堂「お待たせ」

ラブリン「本当、ユニフォームの方が円堂くんらしいね。」

円堂「じゃ、母ちゃん、行つて来る。」

温子「いつてらっしゃい。」

テレビ局

風丸「少し早めに着いたみたいだ。」

豪炎寺「やはりお前も来てたか。」

風丸「豪炎寺！後夕香ちゃん、2人も来たんだ」

夕香「うん、お兄ちゃんのお友達を見に来たの」

染岡「よお！」

鬼道「お前たちも同じ考えだったか。」

豪炎寺「染岡、鬼道」木野「みんなも来たんだ！」

壁山「間に合ったッス」

栗松「あつ！みなさんやつぱり来てたんでヤンスね。」

闇野 影野 穴戸 半田松野 夏末 音無 土門一之瀬 冬花 目

金 少林寺が来ていた。

鬼道「結局みんな考える事は同じだった訳か。」

搭子「おゝい」

夏末「搭子さん！？」搭子「円堂がテレビに出ると聞いて生で見に来たんだ！」

飛鷹「雷門のメンバーも来てたんだな。」

風丸「飛鷹！？お前もか！」

飛鷹「昨日、響木さんに聞いたんな。」

栗松「あつ！来たでヤンス！」

円堂「あつ！みんな、来てくれたんだ！」

ラブリン「円堂くん、こっちこっち」

円堂「じゃみんな、また後で」

木野「もしかして1番来たかったのは、立向居くんだったかもね。」

陽花戸中

戸田「立向居、ラブリンの番組やるけど、みんなで見ないか!？」

立向居「すみませんキャプテン！1日でも早く円堂さんに追いつきたいんです！」

戸田「そうか……残念だなあ、ゲストは円堂くんなのに……」  
「立向居「キャプテン、何してるんですか!？早くしないと円堂さんが見られなくなりますよ。」

戸田「切り替えの早い奴」

東京テレビ局

撮影監督「準備は良いかい？」

ラブリン「はい」

スタッフ「それでは本番入ります、スタート！」

ラブリン「みなさん、こんにちは。ラブリンの杉村メロディー又に聞いてみよう！が始まりました。」

今日は、杉村メロディー又さんに来ていただきました。

メロディー又「ヨロシク！」

ラブリン「今回はゲストとして、円堂守さんに来ていただきました。  
では、どうぞ！」

円堂「どうも、こんにちは。」

ラブリン「今日は、来ていただいてありがとうございます。では、早速始めたいと思います。円堂さん、メロディー又さんに聞きたいことがありますか？」

円堂「そうだな、バイオリンを始めたきっかけはなんですか？」

メロディー又「ミーのパパはバイオリニストなの。」

ラブリン「バイオリンは、お父さんの影響なんですね！」

メロディー又「YES！でもこのバイオリンはミーが小さい頃優しそうなお姉さんにもらった物なの」

円堂「もらった？」

ラブリン「誰にですか！？」

メロディー又「あの頃ミーは小さかったからよく覚えてないよ。」

番組もそろそろ終盤になりメロディー又が円堂に質問する

ラブリン「では最後にメロディー又さんが円堂さんに聞きたいことありますか？」メロディー又「聞きたいこと　あつ！1つ聞きたいことがあるの。」

ラブリン「何ですか？」

メロディー又「円堂くんは、なんでそんなにまっすぐでいられるの！？」

円堂「まっすぐ？うん、うまく言えないけど、俺がまっすぐなのは、サッカーが好きだから！」

メロディー又「サッカーが好きだから！？」

円堂「ああ、人には必ず目標がある。」

メロディー又「目標？」

円堂「俺がサッカーで大きな舞台に行く目標があるから頑張れる、だから諦めなかったんだ。メロディー又にもあったはずだ、バイオリンで大きな舞台に立つ目標が！」

メロディー又「　うん、あつた！あつた！ミーが立ちたかった舞台に立つ目標」

円堂「大切なのは、目標を持って立ち上がる事なんだ！」

ラブリン「ありがとうございました！では、今日の番組はここまで、またお会いしましょう。」

テレビ局のロビー

壁山「キャプテン、かつこよかったッス」

音無「お疲れさまでした。」

田堂「サンキュー、みんな。」

ラブリン「どうだった？田堂さんの勇気が出る言葉。」

メロディーヌ「うん、ミィ、ますます田堂さんに憧れたよ。」

第13話 生中継再び 円堂とメロディーヌ ? (後書き)

次回予告 メロディーヌが神無月とハーモニーの歌を作りだす

第14話 奇跡の歌

ハーモニーハート

イナズマイレブン

今日の格言

円堂「大切なのは、目標を持って立ち上がる事なんだ！

## 第14話 奇跡の歌ハーモニーハート

神無月家

ピロロロン

テルリン「愛、メールだよ。」

神無月「メロディー又从らだわ!」

メール【愛へ、ミーのバイオリンと愛の歌声で歌の作る。クッキーもお願いね】

メロディー又のいるマンション

メロディー又「音色はバッチリ作ったよ、後は愛が歌詞を作るだけだよ。」

神無月「うん、任せて。」「とは言うものの、どという歌詞にするかな。」

鉄塔

円堂「ん!あれは……おい神無月い!」

神無月「円堂くん」

円堂「どうしたんだ?少し元気ないみたいだけど!」

神無月は円堂に訳を話した

円堂「メロディー又が歌を作ると!」

神無月「うん、でも歌詞が思いつかなくて。」円堂「大丈夫、2人の気持ちがいっつになれば奇跡がおきる」

神無月「えっ!奇跡、それだわ!ありがとう円堂くん」

雷門中

木野「奇跡がメインの歌を作るのね!」

神無月「うん、他になにを入れればいいか。」

木野「迷わないで考えていこう。」

神無月「迷わない それももらったわ!」

染岡「信頼も使えねーか!」

神無月「信頼、それも使えるわ!」

神無月は円堂たちのヒントで歌詞を作りました。

神無月「円堂くん、歌出来たんだけど。」

円堂「本当か！？やったな、神無月。」

神無月「だからみんなを誘って鉄塔に来てくれる、私もメロディー  
又と先に行ってるから。」

円堂「わかった！みんなを呼んでくる」

再び鉄塔

神無月「あつ！来たよ！」

円堂「お待たせ！みんな連れてきたぜ。」

冬花「それでどんな歌何です！？」

メロディー又「ミーと愛が作った歌そのタイトル名は」

メロディー又、神無月「ハーマニーハート」

神無月とメロディー又が作った歌はとてもよく本当に奇跡が起こる  
ハーマニーな歌だった

神無月家

神無月の父「メロディー又ちゃんと作った歌きつと大評判になるよ。」

「

神無月の母「そうね。」

神無月「ヤダ！パパ、ママ大評判だなんて。」

テルリン「でもいい歌だったし大評判になるよ。」

神無月「テルリンまで。」

ピンポーン

神無月「私が出る。ハ〜イ」

ガチャ

神無月「あつ！メロディー又」

神無月の母「あらっ！メロディー又ちゃん、どうしたの？そんなに  
荷物を持って。」

メロディー又「ミー今日からここに住む事にしたの。」

神無月「本当！？」

神無月の父「歓迎するよ。空き部屋があるから。」

神無月「よろしくね、メロディーヌ」

メロディーヌ「ヨロシク、後1つお願いがあるんだけど。」

神無月「えっ？」

次の日 雷門中

豪炎寺「そうか、メロディーヌが神無月の家住む事になったのか。」

木野「バイオリンの音色と歌声がピッタリだもんね。」

神無月「うん！じつはもう1つ驚く事があるの。」

円堂「驚く事？」

ガラガラ

先生「さあ、席に付け。今日はドイツから来た留学生を紹介するぞ。」

「

円堂「ドイツから来た留学生？まさか！」メロディーヌ「はじめまして、杉村メロディーヌです、ヨロシクね。」

木野「驚く事ってこの事だったのね！」

神無月「うん」

メロディーヌ「あっ！守くん！」

円堂「えっ！？守くん！？」

メロディーヌ「うん、今日から守くんと呼んでいいよね？」

円堂「ああ！いいぜ、よろしくな！メロディーヌ」

メロディーヌ「ヨロシク」

放課後

風丸「炎の風見鶏」

円堂「真イジゲン・ザ・ハンド」

メロディーヌ「ワア！ファンタスティック！」

神無月「すごい、みんな楽しそう、特に円堂くん」

メロディーヌ「なんで守くんは、あんなに楽しそうにサッカーやれるんだろ？」響木「それはあいつが宇宙一のサッカーバカだからだ。」

「

メロディーヌ「宇宙一のサッカーバカ！？」

神無月「円堂くんたちが1年生の時もサッカー強かったのかな？」



木野「ああ、実を言うと」

神無月「ええ〜！！円堂くんが雷門中に入学した時サッカー部はなかったの！？」

木野「うん、40年前サッカー部はあったけど廃部になって円堂くんと私がサッカー部を作ったの。最初は部員は7人だけだったけど風丸くんたちや豪炎寺くんが入ってくれたからフットボールフロンティアに出場出来たのよね。」

メロディー「でもサッカー部が今の人数で昔の人数が考えられないな。」

夏末「ええ、そうね」メロディー「やっぱり、守くんが諦めなかったからフットボールフロンティアで優勝出来たんだね。」

木野「そうだね、すべては、円堂くんがみんなを支えて元気づけてくれたからだね。」

メロディー「すべては守くんが支えたっか……やっぱり、守くんはすごいよ。」

## 第14話 奇跡の歌ハーモニーハート（後書き）

次回予告 ニュージージーランドの男が俺をスカウトする

第15話 新たな舞台

ニュージージーランドへ

今日の格言

円堂「2人の気持ちが1つになれば奇跡が起きる」

## オリキャラ設定・・・？

オリキャラその6

名前 クロナ・ワークス

性別 男

年齢 14歳

ニュージールランド出身、32チーム、ホワイトタイガーのキャプテン。外道のサッカーチームブラックドラゴンを憎んでいる。

ポジション FW

背番号 9

必殺技 ライトニングボルテック、ライトニングボルテック改、真ライティングボルテック。

オリキャラその7

名前 スティープ・キャプラー

性別 男

年齢 14歳

32チーム、ブラックドラゴンのキャプテン。外道のサッカーチームと言われているが自分はなぜ言われているのかわかっていない。

ポジション FW

背番号 10

必殺技 リュウノアギト リュウノアギトV2 リュウノアギトV3

オリキャラその8

名前 ジャンヌ・フォウド

性別 女

年齢 14歳

特徴髪の色は水色のロング。目の色は薄い紫

クロナ・ワークスの幼なじみでサッカーが好き。サッカーのルールも詳しくホワイトタイガーの監督を勤めていた、親を亡くしホワイトタイガーの大統師をやっている

## 第15 新たな舞台 ニュージーランドへ

ニュージーランド

「??? A「くそ、まさか大会前にこんな事になるなんて、一体どうすれば!？」」

「??? B「落ちついて下さい、いい選手を見つけました。」」

「??? A「本当か!？そいつはどこに？」」

「??? B「日本の東京、稲妻町に世界一になったゴールキーパーがいます、他の選手もいるはずです。」」

「??? A「日本か、遠いな。でもない方よりマシだ!必ず大会前に間に合わせ見せる。」」

日本 稲妻町住宅街

「??? A「確かこの辺のはずだが、あの人に聞くか。ね、君!」」

木野「はい!なんですか?」

「??? A「この辺に世界一になったゴールキーパーの家はどこかな?」木野「世界一になったゴールキーパー?円堂さんと事ですか!」そこでしたら、ここです。」

「??? A「ここが!」」

ガラッ

円堂「母ちゃん、行ってくる。おう、秋。あれ!君は?」

「??? A「俺、ニュージーランドから来たクロナ・ワークスだ。円堂、お前を俺のチームにスカウトする。」」

円堂「ええ!?!俺がニュージーランドのチームに!?!」

クロナ「ああ、いいよな。」

円堂「悪いけど、俺は雷門サッカー部のキャプテンなんだ、スカウトは断るよ。行こうぜ、秋。」

木野「うん。」

クロナ「断られた、でも諦めない。」

雷門中

鬼道「円堂をスカウトする奴！？」

木野「うん、でもすぐ断ったけど。」

豪炎寺「染岡、雷門のキャプテンが円堂以外の奴は考えられるか！？」

染岡「そんな事、考えられる訳ねーだろ！」

神無月「円堂くん」

夏未「あらっ、神無月さんにメロディー又さん！」

メロディー又「ハロー、愛のママが差し入れてクッキーを作ってくれたんだ。」

壁山「クッキー！おいしそッス」

テルリン「何か話してなかった？」

音無「じつはですね」

メロディー又「そんな事があつたんだ。」テルリン「プロのスカウトでもないのに円堂くんをスカウトするなんて。」

豪炎寺「俺たちがここまで成長したのは、円堂がそばにいたからだ。」

一之瀬「そうだ、俺も円堂のサッカーが好きになって雷門に入ったんだ。」

円堂「ありがとうな、みんな」

クロナ「あいつ、いい仲間を持つてるぜ。」古株「誰じゃ？お前さんは。」

クロナ「わあ！！」

土門「誰だ、あいつ？」

円堂「またお前か、スカウトは断ったはずだ。」

風丸「あいつが円堂をスカウトした奴か！？」

木野「うん」

クロナ「まあ、スカウトと言っても大会が終わるまでの助っ人ではないんだ。」

円堂「助っ人？」

クロナ「そうだ。」

円堂「グラウンドに來い」

クロナ「えっ!？」

円堂「PKで勝負だ!お前のシュートが本気なら話を聞いてやる。」

クロナ「わかった、いくぞ円堂!ライトニングボルテック!」

土門「なんだ!？あのシュート!」

円堂「ゴッドキャッチG3」

しゅううう

松野「止めた!」

穴戸「キャプテンの勝ちだ!」

クロナ「くそ。」

円堂「このシュート、本気のような。」

クロナ「ああ、本気でけらない奴がどこにいる。」

円堂「話を聞いてやるよ。」

クロナ「本当か!？ありがとう。」

円堂「ニュージーランドのお前がなぜ日本に來たんだ!？」

クロナ「じつは、今週年に1度行われるサッカー大会、カラーアニマルカップが開かれる。俺たちのチーム、ホワイトタイガーも大会に向けて練習していた!だが、16人の内、13人が事故で怪我してしまつたんだ。」

夏末「それは大変だつたわね。」

クロナ「でもあの事故はすべて俺たちを狙っていた、これは外道のサッカーチーム、ブラックドラゴンの仕業に違いない!あいつらは勝つためなら手段は選ばない奴らだ!残つたのはフォワードの俺とディフェンダーの2人だけ、頼む円堂、俺たちのチームに助っ人として参加してくれ。」

円堂「ああ、話はわかつたぜ、クロナ。俺もその大会に参加する。」

クロナ「本当に参加してくれるのか!？」

円堂「ああ、そんな卑怯な事許せない」

木野「でもクロナくん、円堂くんをスカウトしても他にあてはあるの？」

クロナ「あっ！円堂をスカウトするに夢中であてはない。」響木「だったら、フットボールフロンティアインターナショナルの日本代表候補に選ばれたお前らが出るべきだ！」

目金「響木監督、一斗もふくめますか？」

響木「精神にもろい奴は無理がある。後、一之瀬、土門、お前たちもふくめる。」

一之瀬、土門「ハイ」

鬼道「しかし後2人足りないな。」

「???」僕たちも参加しよう。」

円堂「あっ！！アフロディに佐久間！！」

佐久間「雷門中近くでアフロディに合ったんだ。」

アフロディ「話しはすべて聞かせてもらった。僕たちで良ければ力になるよ。」

円堂「本当か！！アフロディ。」

アフロディ「ああ、君に取って許せない事は僕に取って許せない事だ」

半田「円堂、俺たちも行くよ。」

円堂「えっ!？」

半田「俺たち、日本代表候補になれなかったけどみんなを見守る事なら出来る。なあみんな!!」

影野、穴戸、少林寺「「「おお」」」

メロディー「又「だったらミーも行くよ。」神無月「それなら私も行くわ。」

テルリン「私も。」

円堂「ありがとう、みんな。」

クロナ「本当にいい仲間を持ったな、円堂。」

円堂「よし、メンバーがそろった！行こうぜ、ニュージーランドへ！」

仲間達「「「おお」」」

次の日 円堂たちはニュージーランドに出発した。新たな戦いが幕を開ける。



## 第15 新たな舞台 ニュージールランドへ（後書き）

次回予告 ニュージールランドで行われるカラーアニマルカップがいよいよ幕を開ける

第16話 開幕 カラーアニマルカップ  
イナズマイレブン

今日の格言

アフロディ「君に取って許せない事は僕に取って許せない事だ」

## 第16話 開幕 カラーアニマルカップ

ニュージールランドの山奥

イナズマキヤラバン

メロディー「イナズマキヤラバンって、ユニークな乗り物だね！」  
神無月「うん、私も始めて乗るよ。」

風丸「しかし、こんな山奥に村があるのか!？」

クロナ「確かこの辺、あつ!古株さんすみません、止めて下さい。  
あつ!見えた!みんな、見えたぞ!」

鬼道「ここが32チームの村か!？」

クロナ「いや、ここは俺たちホワイトタイガーの合宿村だ。大会1  
ヶ月前になるとここに来るんだ。」

壁山「早く泊まる所に行くツス。」

クロナ「悪いけど、まずみんなに、大統領に会ってもらいたいんだ。  
」

豪炎寺「大統領?」

クロナ「ああ、さあ行こうぜ。」

合宿村

円堂「すげえ、奥にでっかい建物があるぞ!」

クロナ「あそこが、俺たちの練習グラウンドだ。少し目の前にポジシ  
ヨンの間がある」

円堂「ポジシヨンの間?」

フォワードの間

FWA「はっ!」

FWB「シュート!」

音無「たくさんいますよ!」

染岡「こんなにて、なぜこいつらを選ばなかったんだ。」

クロナ「ここにいるのは、みんな小学生みたいな物なんだ。だから  
出場できない。」

木野「そういえば、残ったのは、クロナちゃんとディフェンダーの2人って言うたね」

クロナ「ああ、そいつらならディフェンダーの間に。」ディフェンダーの間

クロナ「ほらあそこ、あの2人は双子で黒い髪が兄のカインで茶色の髪が弟のケインだ。おい！」

カイン「クロナ！帰ってきたのか！？」

ケイン「そいつらが助っ人か！？」

鬼道「ところで、ホワイトタイガーのキャプテンは誰なんだ？まさか怪我をしてしまったのか！？」

クロナ「あゝ、言うてなかったな。キャプテンは……俺なんだ。」

円堂たち「「ええー！！！」」

円堂「クロナ、お前がキャプテンだったのか！？」

一之瀬「この2人の実力は？」

クロナ「試して見るかい？」

一之瀬「じゃあ俺が相手になるよ。」

カイン「フィールドの魔術師、一之瀬一哉か！」

一之瀬「いくぞー！」ケイン「やるぜ！アニキ！」

カイン、ケイン「デュアルストーム！！！」

一之瀬「うわっー！！！」

円堂「すげえ！」

鬼道「コンビネーション拔群だな。」

カイン「クロナ、大統領の所に行ったか？」

クロナ「あつ、すっかり忘れてた。今から行くから2人は先に寮に戻っててくれ。」

カイン、ケイン「「わかった。」」

大統領の塔

円堂「ここには大統領がいるのか！？」

クロナ「おう」

土門「ところで、その大統領ってどんな奴なんだ!？」

クロナ「大統領は俺の幼なじみなんだ」円堂「ええ〜!!」

冬花「幼なじみなんですか!？」クロナ「ああ、前はホワイトタイガーの監督をやってくれたんだ!でも両親を亡くしてから大統領になつたからな。」

夏未「両親と大統領の何の関係があるの？」

クロナ「それは、彼女が前の大統領の娘だからだよ。」

円堂「そうだったのか!？」

クロナ「中に入るぞ。みんな付いてきてくれ。」

大統領の部屋

クロナ「大統領、助っ人メンバーを集めてきたぜ。」

大統領「お疲れ様でした!始めまして、雷門中のみなさん、私が大統領のジャンヌ・フォウドです。」

木野「あの人がクロナくんの幼なじみ!」ジャンヌ「円堂くん、あなたの活躍は聞いています。」

円堂「あつ!ありがとう!」ジャンヌ「みなさんも、大会は明後日ですのでゆつくり休んで下さい。」

合宿村の寮

円堂「ここがホワイトタイガーの寮か!」

カイン「よう、遅かったな。」

ケイン「後は明日に備えて休んでくれ。」

次の日 グランド

クロナ「佐久間!」

カイン「いくぞ!ケイン」

ケイン「おし、通さないぜ。」

トン

佐久間「よつと」

トッ

「甘いぜ」

クロナ「佐久間やるな!カインとケインのコンビネーションを突破

するとは！」

鬼道「春菜はどこに行つたんだ。！？」

クロナ「音無は古株さんとユニフォームを取りに行った」

木野「みんな、休憩よ！」

クロナ「カイン、ケイン、どうだ！？円堂たちの動きは！？」

ケイン「そうだな、いい動きをしてる。」

音無「みなさん！ユニフォームが届きましたよ！！」

円堂「本当か！？すげえ、これがホワイトタイガーのユニフォームか！かっこいいぜ。」

クロナ「ああ、白いトラのマークが有るだろ！それが白虎だ」

円堂「よし、気合いが入った！練習再会だ！」

クロナ「えっ！？今休憩したばかりだろ！」

円堂「ユニフォームを着てやる気出てきた！」

クロナ「お前たちのキャプテン、いつもこんな風なのか？」

染岡「ああ、これだから円堂といっても退屈しないぜ。」

夕方 グランド

クロナ「練習終わりだ！明日に備えて休んでくれ。」

メロディー「ん？ねークロナくん。あのタイヤは！？」

クロナ「あのタイヤはダンプカーのタイヤだ。もう使わないけど。」

メロディー「あっ！あのタイヤくれないかな？」

クロナ「いいけど、何に使うんだ！？」

メロディー「後簡単に切れない縄ある？」

クロナ「縄だったら、物置にあるが。」

神無月「わかった！メロディーがやりたい事が！」

メロディー「最後に丈夫な木はどこにあるの？」

クロナ「この木なら簡単に折れないよ。でも何に使うんだ？」

メロディー「テルリン、守くんを呼んできて。」

テルリン「了解！」

メロディー「この縄をここの枝に縛って、出来た！」

クロナ「これ、いったい何に使うんだ？」

テルリン「メロディー又、円堂くんを呼んできたよ！」

円堂「なんだ、メロディー又！？ おっ！！これは、キーパーの練習のタイヤ！」

メロディー又「大きなタイヤを見つけたから、こうするのはどうか  
なつて。」

円堂「サンキュー、メロディー又！早速使っぜ。そらっ！」  
バシィン

クロナ「なっ！なんて危ない特訓なんだ！？ほんとにしるよ！ケガしたら元も子もないぞ。」

円堂「大丈夫！いつもやってるから。」

クロナ「いつも！！？やっぱあいつ、変わってるな。」

大会当日

円堂「いよいよカラーアニマルカップが始まるんだな。」

クロナ「ああ、円堂、これを受け取ってくれ。」

円堂「これは、キャプテンマーク！」

クロナ「みんなの力を引き出せるお前がキャプテンをやってくれ。」

円堂「悪いけど、受け取れない。」

クロナ「えっ！？」

円堂「ホワイトタイガーのキャプテンはお前だろ！自分のチームは自分が引つ張らなきゃダメだ！」

クロナ「そうだよな、キャプテンの俺がこんなじゃダメだよな。よし！目が覚めたみんな、大会に乗り込むぞ！」

ホワイトタイガーのメンバー「おお」「」

いよいよカラーアニマルカップが始まった！この先にどんな試合が待ち受けているのか！？

## 第16話 開幕 カラーアニマルカップ（後書き）

次回予告 ついに大会が始まった 1回戦の相手はいきなり優勝候補

第17話 赤き闘牛 レッドバッファロー

イナズマイレブン

今日の格言

円堂「自分のチームは自分が引つ張らなきゃダメだ！」

## 第17話 赤き闘牛 レッドバッファロー

トーナメント表

クロナ「1回戦の相手はレッドバッファローか！」

カイン「いきなり厄介な相手だな。」

円堂「そんなに強いのか!？」

クロナ「ああ、毎年の大会で優勝候補と言われてる！」

円堂「すげー! そんな強い相手と戦えるのか!？」

ケイン「普通、喜ぶ所じゃないぞ。」

豪炎寺「あいつは、相手が強ければ強いほど盛り上がる奴だ!」

???「俺たちと戦えるのがそんなに嬉しいのかい？」

クロナ「レジー!」

風丸「誰だ? あいつは。」

クロナ「あいつはレジー・ハミルトン、1回戦の相手、レッドバッファローのキャプテンだ!」

円堂「お前がレッドバッファローのキャプテンか! 俺、日本から来た円堂守、よろしくな。」

レジー「円堂守?」

ゾロ「聞いた事ある、日本代表、イナズマジャパンのキャプテンだつて。」

レジー「ああ、まぐれで世界一になったチームのキャプテンか!」

染岡「なんだと! 俺たちが優勝出来たのは、まぐれだと言うのか!」

レジー「しかし、ホワイトタイガーも落ちたな、日本を助っ人にするとは! まあ、せいぜい頑張りな、まっムリだろうけど。アハハハ!」

染岡「チッ!」

テルリン「やな感じ!」

クロナ「言わせておけ、さあ中に入るぞ!」

王将「さあ始まりました! ニュージールランド、カラーアニマルカツ



プが開催されます。」

木野「あの人、なぜここに!？」

クロナ「王将さんを知ってるのか？」

松野「日本のフットボールフロンティアで実況してるんだよ。」

王将「Aグループの1回戦、ホワイトタイガー対レッドバッファロ

ーの試合が始まります。」

ホワイトタイガー

FW 背番号

豪炎寺 10

クロナ 9

染岡 11

MF

松野 6

鬼道 14

一之瀬 7

DF

風丸 2

カイン 3

ケイン 4

土門 13

GK

円堂 1

レッドバッファロー

FW

レジー 11

ペデーニョ 9

MF

ボム 10

ロド 8

キン 7

マーキー 6

D F

ゴードン 5

カーター 4

マック 3

フォード 2

G K

ゾロ 1

ピイイイ

王将「ホワイトタイガーのキックオフで試合が始まった！」

松野「クロナ！」

クロナ「いくぞ！ライトニングボルテック！」

ゾロ「バッファローホーン！」

王将「止めた！キーパーゾロ、クロナのシュートを止めました。」

ゾロ「ボム」

鬼道「風丸、マックス！」

風丸、松野「おお」

ボム「牛追い突進！」

風丸、松野「ぐあ！」

ボム「レジー！」

レジー「バイソンキャノン！」

円堂「爆裂パンチ！ぐああ！」

王将「ゴール！レッドバッファロー1点先制だ！」

円堂「すげー、こんなシュート撃てるなんて！やっぱり世界はまだ

まだすごい奴がたくさんいるんだな！」

ロド「点取られたのに何喜んでんだ？」

レジー「点取られたからやけになっただだよ。」

円堂「クロナ！試合はまだまだこれからだ！いくぞ！」

王将「レッドバッファローの攻撃はまだ続きます！ペデーニョが上  
がって行くぞお！」

ペデーニヨ「ニードルショット！」

カイン、ケイン「「羅生門」」

王将「カインとケイン、ペデーニヨのシュートを止めた！ボールは風丸に渡った！」

風丸「真風神の舞！」

マーキー「うわぁ！」

風丸「染岡！」

染岡「打ち碎け、ドラゴンスレイヤーV3」

ゾロ「バッファローホーン」

王将「ゾロ、ドラゴンスレイヤーを止めた！」

ゾロ「ゴードン！」

松野「クイツクドロウV2」

ゴードン「うっ！なに！？」

松野「豪炎寺！」

豪炎寺「真爆熱スクリュー！」

ゾロ「バッファローホーン！」

木野「なんて力なの！」

ピイピイ

王将「ここで前半終了だぁ！得点は1対0でレッドバッファローのリード、ホワイトタイガー追いつけるのか！？」

クロナ「くそ、ここまでか！」

円堂「クロナ！まだ終わった訳じゃない！諦めたらおしまいだ、何のために俺たちを助っ人にしたんだ？」

クロナ「ああ、そうだな、これから後半が始まるのに諦めかけてたぜ！よし、後半で逆転だ！」

ホワイトタイガーのメンバー「「「おお」」」  
ピイ

王将「後半が始まりました！ホワイトタイガーが逆転するのか！？レッドバッファローが逃げ切れるのか！？」

円堂「さぁみんな、諦めずに戦うぞお！」

クロナ「ライトニングボルテック」

ゾロ「バッファローホーン」

松野「クロスドライブ改」

カーター「ザ・コンクリート」

神無月「キーパーだけじゃなくディフェンダーも固いわ!」

ゾロ「まぐれで世界一になった奴らに俺らの技破れる訳ないだろ!」

染岡「まぐれじゃね、仲間と友に戦ったから世界一になったんだ!クロナやジャンヌの期待に応えるぜ!」

クロナ「染岡」

王将「さあ、ここでロスタイムに入った!このまま終わってしまうのか!?!」

クロナ「染岡、決める!」

染岡「うおおお!いけ!」ゾロ「バッファローホーン!ぐう!」

パリン

ゾロ「ぐわあ!」

王将「ゴール!ホワイトタイガー、ついに同点!染岡の新技が決まった!」

レジー「うそだろ!」

目金「竜の爪がゴールを襲う、ドラゴンキラーと名付けましょう」

レジー「引き離してやる、バイソンキャノン!」

円堂「もう点はやらないぜ!爆裂パンチ改」

バシン

レジー「なに!?!進化したと!?!」

王将「残り時間は、後わずか!先に点を取るのはどちらのチームなのか?」

染岡「いくぜ!」

ゾロ「そいつを止める!」

染岡「今だ!いけクロナ!」

クロナ「ああ、みんなの頑張り無駄にしない、ライトニングボルテック改」

ゾロ「バッファローホーン！」

パリン

ゾロ「あっ！」

王将「決まった！ホワイトタイガー、ついに逆転！」

ピイピイピイ

王将「試合終了！ホワイトタイガー、1回戦突破しました！」

円堂「やったぞお！みんな！」

レジー「負けた！」

メロディーヌ「やった〜」

円堂「レジー？」

レジー「負けたよ、世界一になったのは、まぐれじゃなかったみたいだ。」

円堂「その事はもういいよ、それより楽しかったぜ！また、サッカーやろうな！」

レジー「ああ、またやろう。」

メロディーヌ「守くん、また新しい友達が出来たみたいだね！」

神無月「そうだね。」

クロナ「円堂守、やっぱり面白い奴。」

## 第17話 赤き闘牛 レッドバッファロー（後書き）

### 次回予告

次回 外道と呼ばれしチーム、ブラックドラゴンが恐ろしい力を見せつけてきた！こいつらに勝てるのか！？

第18話 ブラックドラゴンの力、対決ピンクの策士ピンクピック  
イナズマイレブン

### 今日の格言

染岡「仲間と友に戦ったから世界一になったんだ！」

## 第18話 ブラックドラゴンの力、対決ピンクの策士ピンクピック

レッドバッファローに勝利し2回戦に駒を進めたホワイトタイガー神無月「お疲れ様、円堂くん！」

メロディーヌ「すごい試合だったね！染岡くんもすごいシュートだったよ。」

染岡「当然だぜ！」

豪炎寺、このままエースストライカーの座は、俺がいただくぜ！」

豪炎寺「ふっ、確かにお前は凄い。だが、俺にもプライドがあるからな。エースストライカーの座は譲れないな」

円堂「確か次はBグループの1回戦だったな。」

クロナ「ああ、あの外道のブラックドラゴンが出る試合だ。」

???「外道で悪かったな。」

クロナ「ブラックドラゴン!!」

鬼道「あいつらがブラックドラゴン！」

???「よお、元気そうだな、クロナ！」

クロナ「久しぶりだな！ステイプ！」

ステイプ「今年のお前たちは不幸だったな。」

クロナ「なんだと!？」

リコ「13人が事故で出場出来なかったのが最悪だったな」

カイン「お前らがやったくせに!」

ココル「オイオイ、変なん言いがかりはよしてくれよ。」

俺たちがやったつつ証拠でもあれば謝ってやるよ。」

カイン「くっ!」

クロナ「ステイプ、この借りは試合で返すからな!」

ステイプ「いいだろう、ただし、お前たちがその日本人と決勝まで来れたらの話だな。」

アッハハハハハ」

テルリン「レッドバッファローのキャプテンよりやな感じ!」

田堂「あいつがブラックドラゴンのキャプテンか!？」

クロナ「ああ、あいつがキャプテンのステイブ・キャプラーだ。」  
佐久間「あいつの実力は？」

ケイン「ステイブの実力は確かだ。前の大会で1年ながらハットトリックを決めまくっていたからな。」

田堂「そんなに凄いなら、見てみたいぜ！」

クロナ「よし、この後あいつの試合だし1回見に行くか！」

王将「ええ、Bグループ1回戦、ブラックドラゴン対イエローイーグルの試合を行います！」

ピイイイ

ゴメス「オラア」

イーグルA「な！」

ドガッ

イーグルA「グアッ」

ログ「そらよパス」

バキッ

イーグルB「ヌアッ」

木野「酷い……」

ステイブ「そら」

ギュルルル

イーグルC「この程度のシュート、止めてやる」

ブオオオオ

イーグルC「な、なんて、パワーだ。」

ウワアッ

ピイイ

王将「決まった！ブラックドラゴンキャプテンステイブ。試合開始一分で先制ゴールだあ！」

田堂「なんてやつらだ！平気で人を倒してまで。」

クロナ「これが奴らのやり方だ。選手を倒し点を取るのがあいつのサッカーだ。」



そして試合が終わり円堂たちは寮に戻った！

円堂「クロナ、あいつらと戦うために練習やろう。」

クロナ「ああ、やろう」

ホワイトタイガーはブラックドラゴンや次の試合のために練習に励んだ。

次の日

音無「次の相手はピンクピックになりました！」

クロナ「ピンクピックかあ。」

ケイン「また厄介な相手がきたよ。」

鬼道「まさかそいつらも！」

カイン「そのまさかだ。そいつらも優勝候補だ。」

クロナ「ピンクピックのメンバーは全員がゲームメイカーだからな。」

風丸「全員がゲームメイカー！？」

クロナ「特にキャプテンのリキット・グンドは、フィールドの全てを支配するようなゲームメイクをする。」

佐久間「鬼道並みのゲームメイクをするのか？」

クロナ「恐らくは鬼道以上かもしれない」

壁山「そんなにすごいんツスカ！？」

クロナ「鬼道が11人いると考えた方がいいだろう」

壁山「なんか考えたら不気味ツス」

鬼道以外『確かに』

カイン「明日の試合は染岡とクロナを警戒するだろう。」

円堂「そうか！染岡は昨日点を取ったんだ。」

鬼道「だったらいい方法がある！」

クロナ「何かあるのか！？」

試合の日

王将「カラーアニマルカップ、Aグループ2回戦第1試合  
ホワイトタイガー対ピンクピックの試合が始まります。」

円堂「よし、今日も勝つぞお」

ケイン「あつ！ブラックドラゴン！」

クロナ「なに！？」

豪炎寺「俺たちを偵察しに来たのか？」

風丸「誰だ？ステイプと話してるのは？」

クロナ「あの人はブラックドラゴンの監督、ゲオン・ニコルソンだ。」

円堂「あれがブラックドラゴンの監督。」

王将「さあ間も無く試合が始まります！」

バックラ「オイオイ、リキット見るよ！」

リキット「レッドバッファロー戦で1点取ったピンクの坊主頭が控えだと！？」

サムソン「しかも、前の試合に出なかった奴を出して来たぜ！」

ホワイトタイガー

FW

豪炎寺 10

クロナ 9

シャドウ 12

MF

佐久間 16

鬼道 14

アフロディ 8

DF

壁山 15

カイン 3

ケイン 4

栗松 5

GK

円堂 1

ピンクピック

FW		
オマリー	1	1
ピドロ	1	0
ダルク	9	
MF		
リキット	8	
ユング	7	
ハロツズ	6	
DF		
バックラ	5	
フランク	4	
ブライト	3	
エスト	2	
GK		
サムソン	1	
ピイイ		

王将「ホワイトタイガー対ピンクピックの試合が今キックオフ！」  
 リキット「エスト、14番に2テンポダウンでボールを奪え！」  
 エスト「ハッ！」  
 鬼道「なに！？」  
 王将「鬼道ボールを奪われた！」  
 リキット「2、5、8、11」  
 バシッ、バシッ、バシッ  
 鬼道「連携が背番号の順番で通ってるだ！？」  
 オマリー「いくぜ！タービュランス！」  
 円堂「いかりのてっついV2！グアッ！」  
 王将「ゴール！オマリーのシュートでピンクピック、1点先制！」  
 クロナ「やられたか！だがまだ始まったばかりだ！」  
 王将「1点を追うホワイトタイガー！同点になるのか！？」  
 佐久間「いけ、豪炎寺！」

豪炎寺「真爆熱スクリュー！」

サムソン「大風車！」

王将「サムソン、豪炎寺のシュートを弾き返した！」

サムソン「イナズマジャパンのエースストライカーのシュートがコレか……。余程世界のレベルが低いんだなあ」

リキット「2テンポアップ！レフトゾーンからカウンター！」

鬼道「行かせるな！」

壁山「行かせないッス！ザ・マウンテン！」

ピドロ「グアッ！」

壁山「栗松！」

栗松「まぼろしドリブル改！」

王将「ホワイタイガー、壁山が守り、栗松が突破し反撃となるか！？」

栗松「シャドウさん！」

闇野「ナグナロク！」

サムソン「大風車！」

闇野「くそ〜！」

ピイピイイ

王将「前半終了だ！」

鬼道「リキットのゲームメイクを破るには少し時間かかりそうだ。」

円堂「大丈夫だ！きっと突破口は有る、」

ピイイイ

王将「後半戦が始まりました！」

リキット「ユング、上げれ！」

クロナ「カイン！」

カイン「ホーントレイン！」

ユング「うわあ！」

円堂「ケインと一緒にだけじゃなかったのか！？」

カイン「アフロディ！」

リキット「オマリー、ハロツズ！」

アフロディ「真へブンスタイム！」

オマリー、ハロツズ「うわぁ！」

リキット「くそ、突破されたか。」

アフロディ「シャドウくん」

闇野「次こそは決める！うおお」

サムソン「大風車！」

バキッ

サムソン「グアッ！」

王将「ゴール！闇野の新技が決まった！」

目金「一之瀬くんのペガサスショットみたいな勢いのケルベロス、ケルベロスバスターと名づけます。」

リキット「くそ、なめるな、オマリー、点を取れ！」

オマリー「タービュランス！」

円堂「絶対止める！いかりのでつついV3」

オマリー「なに！？」

リキット「くそ、だったら俺が、ブレイジングドライブ！」

王将「これは、かなり強いシュートが出た」

鬼道「円堂！！」

円堂「任せろ！ゴツドキャッチG3」

しゅうう

リキット「なんだと！？」

円堂「いけ、みんな！」

佐久間「豪炎寺！」

王将「さあ次の1点が勝敗を決めることになるぞ！」

豪炎寺「（今の俺のシュートじゃ通用しない、シャドウに渡せば。）」

染岡「打て、豪炎寺！そんな弱気になりやがって！テメーは俺たち

雷門のエースストライカーなんだろ！」

豪炎寺「染岡！？」

円堂「そうだ！いけ、豪炎寺！」

豪炎寺「円堂！……なに弱気になってたんだ俺は？みんなの  
声が聞こえるかぎり俺は強くなる。はああ。」

サムソン「大風車！」

バキッ

サムソン「ああ！！」

王将「ゴール！ホワイトタイガー、ついに逆転！」

目金「名ずけてバーニングサイクロン！」

ピイピイピイイ

王将「試合終了！ホワイトタイガーの逆転勝利だ〜！」

リキッ「負けたよ、おめでとう！クロナ。」

クロナ「リキッ！ありがとう！」

円堂「やったな！シャドウ、豪炎寺！」

豪炎寺「ああ、みんなのおかげだ！染岡、エースストライカーは俺  
でいいのか！？」

染岡「お前があんな弱気じゃエースストライカーの座をあらそうラ  
イバルがいなくなっちまうから言っただけだ！」

豪炎寺「ああ、望むところだ。」

ステイブ「ゲオン監督、ホワイトタイガーが勝ちました」

ゲオン「別にどうでもいい、今年の優勝はブラックドラゴンと決ま  
ってるからな」

ステイブ「はい」

ゲオン「（……今の内にはしゃいでいる我らブラックドラゴ  
ンの恐怖はここからだ！フッフッフ！）」

## 第18話 ブラックドラゴンの力、対決ピンクの策士ピンクピック（後書き）

次回予告 次の相手はカウンター技を得意とするグリーンリザード！  
俺たちはこのカウンターを塞ぎきれるのか！？

次回 第19話 反撃の嵐！グリーンリザード  
イナズマイレブン

今日の格言

豪炎寺「みんなの声が聞こえるかぎり俺は強くなる」

## 第19話 反撃の嵐！グリーンリザード

ホワイトタイガー、合宿寮

木野「明日の相手はグリーンリザードに決まりました！」

ケイン「また優勝候補か！」

カイン「しかもよりによってブラックドラゴンの2番目に厄介な相手だぜ！」

円堂「でも厄介でも優勝候補でも、俺たちは勝ち続けるだけだ！」

土門「そのグリーンリザードはどんなチームなんだ？」

クロナ「グリーンリザードは、別名カウンターリザードと呼ばれている！ディフェンス技は全てシュート技でブロックしてカウンターを狙っているんだ！」

夏末「確かに厄介な相手だわ。」

クロナ「でも、円堂の言うとおり、絶対勝つぞ！」

ホワイトタイガーのメンバー「おお〜」

次の日の試合

王将「お待たせした！カラーアニマルカップAグループ3回戦第1試合

ホワイトタイガー対グリーンリザードの試合を行います。」

カロ「日本のゴールキーパー、円堂守くんですね？」

円堂「そうだ！」

カロ「僕はグリーンリザードのキャプテン、カロ・タリノです。よろしく。」

円堂「ああ、よろしくな！お互い全力で戦おうぜ！」

カロ「ええ（全力で戦おうですか、しかし、勝つのは僕たちグリーンリザードですけどね。）」

ホワイトタイガー

FW

豪炎寺 10



シュツミット「ホワイトタイガーの奴ら前の試合でやってたポジシ	シュツミット1	G K	ネルソン2	スレッジ3	パウエル4	D F	ウィリアム5	ガブレイユ6	カルロス7	ジム8	M F	リマ9	リンク10	カロ11	F W	グリーンリザード	円堂1	G K	栗松5	ケイン4	カイン3	土門13	D F	シャドウ12	鬼道14	風丸2	M F	佐久間16	クロナ9
--------------------------------	---------	-----	-------	-------	-------	-----	--------	--------	-------	-----	-----	-----	-------	------	-----	----------	-----	-----	-----	------	------	------	-----	--------	------	-----	-----	-------	------

ヨンを変えてきたみたいだ！」

カロ「ポジションを変えたくらいでは、どうって事ありません。では、僕たちのカウンターを喰らわせるとしましょう」

ピイイ

王将「さあ、ホワイトタイガー対グリーンリザードの試合が今始まりました！」

円堂「いけ、豪炎寺！」

豪炎寺「バーニングサイクロン！」

王将「出た、豪炎寺の大技！バーニングサイクロン！」  
音無「これで1点先制です！」

シュツミット「やれやれ、デイメンションシールド！」

王将「グリーンリザードキーパーシュツミット！デイメンションシールドで豪炎寺のバーニングサイクロンを弾き飛ばしたあゝ！！！」

カロ「ナイスです！シュツミット！では、行きます！」

王将「おーっとグリーンリザードの必殺タクティクスカウンターウェーブが始まったあゝ！」

円堂「カウンターウェーブ！？」

王将「ボールはカロに渡った！」

カロ「行きます！円堂くん！ジャングルバスター！」

円堂「真イジゲン・ザ・ハンド！」

パリン

王将「入った！グリーンリザード、先制！」

円堂「やるな！だが次は止めてみせる！」

クロナ「次は頼むぞ、円堂！」

佐久間「鬼道、あの技を使うぞ！」

鬼道「ああ、いよいよ特訓の成果を見せるときだ！」

王将「ホワイトタイガーの反撃だあゝ！」

風丸「クロナ！」

クロナ「ライトニングボルテック改！」

パウエル「そんなシュート、俺のシュート技で弾き返してやるよ、

大車輪！」

冬花「クロナくんのシュートを弾き返した！」

カルロス「よし！」

佐久間「うおお！」

パシッ

カルロス「なに！？」

佐久間「鬼道、いくぞ！」

鬼道「おお！」

佐久間、鬼道「エアロスイング」

シュツミット「デイメンションシールド！」

パリーン

シュツミット「なに！？ぐおお！」

王将「追いついた、佐久間と鬼道の連携技が決まって同点に追いついた！」

メロディーヌ「ワンダフォー、すごい技だったね。」

半田「佐久間たち、いつの間にあんな技を！」

カロ「さすがイナズマジャンの選手、コンビネーションも抜群ですな！」

ピイピイピイ

王将「前半終了！同点で後半に向かいます。」

カロ「では、彼等に本当のカウンター嵐をお見せしましょう。」

王将「さあ、後半戦が始まります！そしてグリーンリザードは選手交代ができました！FWリマに代わりニール、MFガブレイユに代わりポーターズ、DFスレッジに代わりバザザを投入してきました！」

鬼道「ここで選手を入れ替えてきたか！」

円堂「ああ！」

クロナ「……いよいよカウターの台風が始まるか」

円堂「え！？」

クロナ「あの三人がああチームの三本柱だ  
ますます厄介になってきたな」

ピイイイ

王将「後半が始まりました！」

佐久間「鬼道！」佐久間、鬼道『エアロスイング』

カロ「フツ、ニール！」

カロ、ニール『ベルホーリー！』

佐久間「なに！？」

王将「エアロスイングを打ち返した！」

円堂「ゴッドキャッチG3！うおお、ぐあー！」

ガン

円堂「あっ！！」

パシッ

王将「ゴールポストに当たり円堂が受け止めた！」

カロ「運がいいですね。」

王将「闇野が攻め上がる！」

闇野「ケルベロスバスター！」

バザザ「クルクルヘッド！」

クロナ「ライトニングボルテック改！」

ポーターズ「キックジャブ！」

影野「さすがカウンタリザード、シュート技で跳ね返してくるな

！」

テルリン「全く隙が無い！」

神無月「でも、それでも円堂くんたちはあきらめないよ。」

そして試合は進みホワイトタイガーはグリーンリザードのカウンタ

ーに苦戦するのだった！

カロ「そろそろ決めますか！ジャングルバスター！」

土門「俺を忘れるな！ボルケイノカットV3！」

カロ「なに！？」

土門「風丸！」

風丸「おう！俺も決めてやる！トルネードブロー！」

シュツミット「デイメンションシールド！」

パリーン

シュツミット「うあ！」

王将「決まった！風丸の新技でホワイトタイガー勝ち越した！残り時間はあと僅か、このまま逃げ切れるのか！？」

カロ「クツ、まだです！まだ終わってません！ニール！」

カロ、ニール『ベルホーリー！』

円堂「うおおお！」

ピカー

バーアン

円堂「えっ！？」

カロ「なに！？」

ピイピイピイイ

王将「試合終了！ホワイトタイガー、準決勝進出！」

カロ「負けた！フツ、負けましたよ。」

クロナ「ああ、どうしたんだ円堂！」

円堂「さっきのアレは一体？」

カロ「もしかしたら円堂くんの新たな技かも知れません。」

円堂「俺の新たな技？」

カロ「そうです！今のは失敗しても、小さな力大きな力なる！次の試合も頑張ってください。」

円堂「ありがとう！カロ。よし、次の試合も勝つぞあ。」

クロナたち『オオ！』

## 第19話 反撃の嵐！グリーンリザード（後書き）

次回予告 大会もいよいよ準決勝！次の相手は陸に上がった鮫！

第20話 陸鮫の牙 ブルーシャーク

イナズマイレブン

今日の格言

カロ「小さな力は大きな力になる」

## 第20話 陸鯨の牙 ブルーシャーク

王将「さあ、大会もついに準決勝！明日に行われる試合は、ブラックドラゴン対パープルコンドル

2日後にホワイトタイガー対ブルーシャークの試合が行われます！果たして決勝に行くのはどのチームなのか！」

練習グラウンド

鬼道「染岡！」

染岡「ドラゴンキラー！」

円堂「うおおお！」

ピカー

円堂「ぐあ！」

風丸「また失敗か。」

円堂「大丈夫、次は完成させてみせる！」

カイン「すごい自信だ。」

ケイン「試合中に技を進化させた奴だ、絶対完成させるにちがいない。」

音無「みなさん、テレビを見て下さい！」

クロナ「どうした？」

王将「試合終了！ブラックドラゴン、決勝進出！」

クロナ「やはりブラックドラゴンが来たか。」

闇野「明日の試合の相手はブルーシャークだったな！」

クロナ「ああ、次の相手も優勝候補だ。」

穴戸「全チームが優勝候補なんじゃないですか！？」

円堂「そのブルーシャークはどんなチームなんだ？」

クロナ「あいつらは地を極めし者だ。」

カイン「中でもDFでキャプテンのボルグはニュージーランド1のDFだから！」

ケイン「俺たち兄弟より堅いディフェンスは厄介だ。」

鬼道「クロナ、明日の作戦はこれで行こう。」

次の日

王将「お待たせしました！カラーアニマルカップ準決勝！

ホワイトタイガー対ブルーシャークの試合を行います！」

ボルグ「久しぶりだな、クロナ」

クロナ「また会ったな、ボルグ！」

ボルグ「悪いが決勝進出は俺たちがいただきます！」

ホワイトタイガー

FW

豪炎寺 10

クロナ 9

染岡 11

MF

マックス 6

一之瀬 7

鬼道 14

アフロディ 8

DF

カイン 3

壁山 15

ケイン 4

GK

円堂 1

ブルーシャーク

FW

シートン 11

ゴールズ 10

MF

ガルバ 9

オーモス 8



パーシー 7

ライズリー 6

D F

メイジ 5

バックス 4

サタン 3

ローム 2

G K

ベイブ 1

王将「ホワイトタイガー、攻撃中心のフォーメーションに切り替え  
てきた！」

ボルグ「攻撃中心か、特に日本人の助っ人に要注意だぜ！」  
ピイイ

王将「今キックオフ！どんな試合をするのか！」

一之瀬「鬼道！」

鬼道、一之瀬『真ツインブースト！』

ベイブ「ソーシャークニードル！」

ズシッ

鬼道「なに！？」

ベイブ「いけ！」

パーシー「行くぜ！ダイビング！」

松野「消えた！」

パーシー「フツ、ゴールズ！」

ゴールズ「ハンマーヘッド！」

円堂「うおおお！いけ〜」

ピカー

円堂「うあ！」

王将「入った！ブルーシャーク先制！」

クロナ「また失敗か！」

染岡「だが、取られたら取り返すだけだ！」

ピイイ

染岡「いくぜ！ドラゴンキラー！」

王将「出た〜！染岡のドラゴンキラー！」

ベイブ「ソーシャークニードル！」

ズシッ

王将「ベイブまた止めた！そしてボールはゴールズへ！」

ゴールズ「これで追加点だぜ！ハンマーヘッド！」

円堂「今度こそ、うおおお！」

ピカー

バアーン

王将「ホワイトタイガー間一髪！ラインを越えた！」

ケイン「あぶね〜！」

カイン「どうした、円堂？」

円堂「……………（手を大きく開いたら前よりパワーが上がった！

？）」

王将「ブルーシャークのスローイングで試合再開だあ！」

カイン、ケイン「デュアルストームV2！」

ガルバ「うわ！」

カイン「マックス！」

松野「よし！」

ボルグ「行かせん、シャークリング」

松野「うわ〜！」

ボルグ「バックス」

バックス「よし！」

アフロディ「させない！」

バックス、ボルグ『なに！？』

アフロディ「いくよ！ゴッドブレイクG5」

ベイブ「ソーシャークニードル！」

パリーン

王将「ゴール！アフロディのゴッドブレイクが決まった！これでホ

ワイトタイガー同点だぁ！」

鬼道「アフロディ、ゴッドブレイクをパワーアップさせいたのか！」  
ピィピィ

王将「ここで前半終了だぁ！」

ボルグ「（くっ、後半でお返ししてやる）」

王将「まもなく後半が始まります。そしてブルーシャークは選手を入れ替えて来ました！FWシートンに代わってヴェルディをDFに投入してきました！そしてなんと！！DFのボルグがFWに入ります！」

円堂「ボルグはFWも出来るのか！？」

クロナ「いや、あいつずっとDFのはず！」

王将「ええ、過去のデータによると今までボルグ選手はFWの経験はありません、一体どんなシュートを撃つのか！？」

ピィピィ

ボルグ「行くぞ、必殺タクティクス！シャークロード！」

王将「なんとこれは！まるでサメが獲物を狙っているようだ！どんなDFラインを突破していく！」

ボルグ「いくぜ！シャークバイト！」

円堂「ゴッドキャッチG3、ぐぁ！」

王将「なんてシュートだぁ！ボルグのシュートで勝ち越した！」

円堂「すごいシュートだ！ゴッドキャッチを破るとはな、でも次は止めてやるぜ！」

王将「試合再開し1点を追い掛けるホワイトタイガー！」

木野「FWはみんなマークされてる。」

松野「こつちだ！」

鬼道「マックス！」

松野「僕も決めるよ、ホーリーランス！」

ベイブ「ソーシャークニードル！」

パリン

ベイブ「あぁ！」

王将「松野の新技が決まった！ホワイトタイガー同点に追い付いた！」

松野「よし！」

目金「聖なる槍でまさにホーリーランス！」

王将「さあ！すごい試合になった！お互い譲れず時間が過ぎていく！」

ボルグ「必殺タクティクス！シャークロード！」

鬼道「……はっ！そうか！壁山！」

ボルグ「もらったぜ！」

壁山「ザ・マウンテン！」

ボルグ「ぐあ！なに！？」

ピイ

王将「なんと！！シャークロードを破った！！」

円堂「鬼道、なんでわかったんだ？」

鬼道「ナイツオブクイーンの無敵の槍だ！解除した時がチャンスだ！」

クロナ「それを見抜くとは！」

ボルグ「くっ、まさか俺たちの必殺タクティクスが破れるとはな！」

王将「さあ！ブルーシャーク、ガルバのスローイングで試合再開！」

ボルグ「決めてやる！決勝に行くのは俺たちだ！シャークバイト！」

円堂「止める！やっとながわかったぜ！はあああ！」  
バーン

ボルグ「なに！？シャークバイトを止めたと！！？」

目金「でっかく開いた手でシュートを地面に叩きつける

その名もブレイク・ザ・ハンド！」

メロディー「又！守くんの新しい力がついに来た！」

円堂「いけ！」

王将「豪炎寺に渡った！ホワイトタイガー、これがラストチャンスだ！」

豪炎寺「染岡！バーニングサイクロン！」

王将「なんと！！これは豪炎寺のシュートミスか！？いや、これは染岡の連携パスだあ！」

染岡「ドラゴンキラー！」

ベイブ「ソーシャークニードル！」

パリン

ベイブ「あああ！」

王将「入った！豪炎寺、染岡の連携技が決まった！」

目金「ドラゴントルネードの逆番でバーニングキラー！」

ピイピイピイイイ

王将「ここで試合終了のホイッスル！ホワイトタイガー、決勝進出しました！」

ボルグ「クロナ、円堂、負けたよ。お前らなら優勝出来る！頑張れよ。」

クロナ「ありがとうボルグ！絶対優勝してみせる！」

王将「さあ明後日にホワイトタイガー対ブラックドラゴンが行われます！優勝するのはどのチームなのか！？」

試合の前夜

円堂「明日の試合に備えて寝るか、ん？あれは、クロナにジャンヌ？なにしてんだ？」

ケイン「あの2人の関係はただの幼なじみじゃないんだ！」

円堂「カイン、ケイン！」

カイン「お前も聞いたろう、ジャンヌは大統師の娘だって！」

円堂「ああ、両親が亡くなって大統師になったて聞いたぜ。」

カイン「クロナとジャンヌの両親はとも仲良くあの2人を許嫁にしてたんだ！」

円堂「許嫁！？」

ケイン「そうなんだ、でもクロナとジャンヌは嬉しそうに喜んでた、あの2人はお互い愛し合っていたんだ。しかし今年ジャンヌが大統師になって俺たちが負けたら。」

円堂「ブラックドラゴンが優勝したらサッカーが酷くなるだけじゃ

なく2人は永遠に結ばれないって事か！だが俺はブラックドラゴンのやり方は許せない！明日絶対優勝して楽しいサッカーを守るんだ！」

ケイン「ああ、ケガをしたみんなのために絶対負けられないぜ！」

カイン「おう、絶対優勝しようぜ。」

次の日

王将「さあついにこの日が来た！カラーアニマルカップ決勝戦！！ホワイトタイガー対ブラックドラゴンの決戦が始まります！果たして優勝するのはどのチームなのか！？」

ゲオン「（ついにこの私が大統師になる時が来た！フッフッフッ！）」

## 第20話 陸鯨の牙 ブルーシャーク（後書き）

次回予告 カラーアニマルカップもついに決戦、ブラックドラゴンの力がホワイトタイガーに襲いかかる！

第21話 邪悪なる黒き竜 ブラックドラゴン！  
イナズマイレブン

今日の格言

ケイン「ケガをしたみんなのために絶対負けられない。」

## 第21話 邪悪なる黒き竜 ブラックドラゴン

ボルグ「いよいよか、円堂にとって少し大きな舞台だ。」

レジー「お前も来たのか！」

ボルグ「レジー、リキット、カロ、！お前らも来たか！」

カロ「僕達も円堂くんの事が気になってきました！」

リキット「ホワイトタイガーがブラックドラゴンに勝てるかどうかだな。」

円堂「ついに決勝戦だな、クロナ！」

クロナ「ああ、ブラックドラゴンは今までの相手とは違う！みんな、気をつける！」

ステイブ「監督、指示を。」

ゲオン「・・・潰せ。」

ステイブ「はい！」

ホワイトタイガー

FW

豪炎寺 10

クロナ 9

染岡 11

MF

アフロディ 8

鬼道 14

佐久間 16

DF

風丸 2

カイン 3

ケイン 4

栗松 5

GK



円堂 1

ブラックドラゴン

FW

ステイプ 10

MF

リコ 11

ゴメス 8

ニド 9

マツト 7

ログ 6

DF

ココル 5

ロラン 4

ネルソン 3

シスラー 2

GK

ガズリー 1

ピイイイイ

王将「さあ、運命の決戦が今キックオフ！この試合に勝つのはどちらなのか！？」

リコ「ステイプ！」

ステイプ「いくぜ！竜の顎は全てを砕く、リュウノアギト！」

円堂「ブレイク・ザ・ハンド！うわ！」

王将「ゴール！ブラックドラゴン、ステイプのシュートで1点先制！」

夏末「円堂さんのブレイク・ザ・ハンドが破られた！？」

土門「なんてパワーだ！」

円堂「くそ、（んっ！？手を握りしめたらなんか力が）」

王将「さあ、試合再開だあ！」

ステイプ「追加点だ！」

カイン、ケイン『デュアルストームV3』

ステイブ「ぐあ！なに！？」

ケイン「豪炎寺！」

豪炎寺「バーニングサイクロン！」

神無月「出たわ！バーニングサイクロン！」

テルリン「これで同点だわ！」

ガズリー「リユウノバイト！」

ガブツ

王将「止めた！」

ステイブ「んっ！？監督の指示！」

ゲオン「DFの2人をやれ。」

ステイブ「・・・はい！」

ステイブ「お前ら、やれ。」

王将「マツトが上がっていく！」

カイン「任せろ！」

マツト「ニド！」

マツト、ニド『じごくぐるま！』

カイン「うっ！！うわああ！」

ケイン「アニキ！」

マツト「ステイブ！」

ケイン「あっ！」

ステイブ「リユウノアギト！」

ケイン「ぐあああ！」

円堂「ケイン！うわあ！」

王将「ゴール！ステイブのシュートがケインごとゴールに入った  
！ブラックドラゴン、追加点だあ！」

円堂「イテテ！」

ケイン「ううう！」

カイン「ケイン！うあ！」

王将「なんと！カイン、ケイン、負傷か！？」

円堂「どうだ？」

木野「これ以上出場はムリよ。」

クロナ「くそつ、ブラックドラゴンめ。」

円堂「壁山、土門、行くぞ！」

土門「おう！」

壁山「はいッス！」

王将「DFカイン、ケインに代わり壁山、土門が入ります！」

ゲオン「フッ」

鬼道「アフロディ！」

ココル「ドラゴンスイング！」

アフロディ「うぁ！」

グキッ

アフロディ「うっ！」

佐久間「鬼道！」

王将「出るか！？エアロスイング！」

ロラン「メテオシールド！」

佐久間「ぐぁ！」

ピィィ

鬼道「佐久間！」

アフロディ「大丈夫かい？ううう！」

円堂「アフロディ！」

王将「ホワイトタイガー、また負傷者が出てしまった！」

アフロディ「僕は大丈夫だ！まだ戦える」

佐久間「俺も行けるぜ。鬼道！」

クロナ「ありがとう。だがムリするな。後は俺たちに任せてくれ。」

王将「MFに一之瀬、松野が出場。」

ピィィ

クロナ「ブラックドラゴン、もう許さないぞ！俺たちは絶対勝つ！

真ライトニングボルテック！」

ガズリー「リュウノバイト！」

バリー

ガズリー「なに！？ぐあ！」

王将「ゴール！ホワイトタイガーついにガズリーから点取った！これで1点差になりました！」

ステイブ「バカな！？」

ゲオン「・・・そいつも潰せ、徹底的にやれ。」

ステイブ「しかし監督、それはやりすぎでは？」

ゲオン「私の命令が聞けんのか？」

ステイブ「・・・わかりました！」

王将「残り1点を追うホワイトタイガー、追いつけるのか！？」

クロナ「よし、いくぜ！」

ステイブ「やるしかないか。」

リコ「アタックアロー！」

クロナ「うわあ！」

マツト、ニド『じごくぐるま！』

クロナ「ぐあ！」

円堂「クロナ！」

クロナ「くつ、あつ！」

ステイブ「うおお！」

ドガッ

ステイブ「うわああ！」

バタッ

ピイ

円堂「クロナ！」

王将「あーと！ホワイトタイガーキャプテンクロナ倒れた！」

円堂「大丈夫か、クロナ！？」

クロナ「くつ、すまない円堂。」

音無「クロナさんはもうムリです！」

クロナ「円堂、俺の代わりにコレを。」

円堂「それは、キャプテンマーク！」

クロナ「今はお前に託したい、頼む！」

円堂「わかったぜ！クロナ」

王将「さあホワイトタイガー最後の選手交代だ、クロナに代わり闇野が入ります！」

ステイブ「これで終わりだ！リュウノアギト！」

円堂「絶対止める！はああ！」

ガシャーン

ステイブ「なに！？」

神無月「やった！止めた！」

目金「ゴールと言う名の門を守る守護神！名付けてゲートガーディアン！」

クロナ「円堂、また試合中に新たな技を！」

円堂「いっけ！」

リコ「喰らえ！」

栗松「真まぼろしドリブル！」

リコ「なに！？」

ステイブ「さっきより動きが良くなってる！」

栗松「一之瀬さん！」シスラー、ネルソン『行かせない！』

一之瀬「うおお！」

スウ

王将「一之瀬、華麗にかわした！」

一之瀬「豪炎寺！」

豪炎寺「バーニング！」

染岡「キラ！」

ガズリー「リュウノバイト！」

バリーン

ガズリー「うわああ！」

円堂「やった！」

王将「ゴール！ホワイトタイガーついに同点だあ！」

ピイピイイ

王将「前半終了！後半で勝ち越すのはどっちだ！？」

ステイブ「同点か！」

ゲオン「やってくれたな！役立たず共！」

ステイブ「え！？なぜですか！？」

ゲオン「大会前に完璧な勝利をしろと言ったはずだ！」

ステイブ「待って下さい！まだ同点です、必ず勝ち越してみせます。」

ゲオン「黙れ、貴様らもう使用済みだ！」

鬼瓦「使用済みになるのはお前だ！」

ゲオン「誰だ？」

鬼瓦「警察だ！お前に聞きたい事がたくさんあるんだ！ゲオン・ニコルソン、お前を逮捕する！」

円堂「鬼瓦刑事！」

鬼瓦「よお、円堂くん！」

冬花「なんでここに！？」

鬼瓦「この子に呼ばれてな。」

クロナ「ジャンヌ！？」

ゲオン「私に何のようだ。」

ジャンヌ「あなたの事調べたんです！ホワイトタイガーのメンバーの事故について。」

鬼瓦「それはお前がホワイトタイガーを出場させないために仕組んだ事だ。お前1人でな。」

ケイン「あいつ1人で！？」

カイン「じゃあブラックドラゴンは本当に知らなかったのか！？」

鬼瓦「それだけじゃない、お前はジャンヌの両親を殺害しジャンヌを大統領にさせブラックドラゴンを優勝させれば大統領になれるという企みだ。そうだろ！」

ステイブ「監督、どうゆう事ですか！？俺たちが外道と言われている事も監督の仕業ですか！？」

ゲオン「……………そうだよ、ホワイトタイガーの事故もジャンヌ

の両親も私がやったんだ。お前たちが優勝すれば私が大統領になりこの大会を思い通りになるのだから！」

ステイブ「俺たちはあんたに利用されてたんですね。」

ゲオン「だが貴様らはもう使用済みだからな！」

ステイブ「ふざけるな！」

バアーン

ゲオン「うわあー!!」

バシッ しゅ

クロナ「円堂！」

ステイブ「なぜそいつをかばう！そいつはホワイトタイガーのメンバーを！」

円堂「サッカーボールは人に当てる物じゃない！サッカーをやるための物だ！」

鬼瓦「連行しろ。」

警官「はっ！」

ステイブ「くっそー！俺たちがやった事は全部悪いことだったのかよ！」

クロナ「ステイブ。」

ステイブ「何だよ、俺らを笑いに來たのかよ！」

クロナ「いや、お前たちが外道と言われてたのは俺らの勘違いだった、すまなかつた。」

ステイブ「いいよ、俺らにサッカーやる資格はない、ホワイトタイガーの勝ちだ。」

円堂「本当にそれでいいのか！？ステイブ。それで納得するのか！？」

ステイブ「日本人のお前に何がわかる！俺らがやった事は許される事じゃないをだ！」

円堂「わかる！今まで俺はサッカーを汚す奴と試合をした。だが最後まで戦ったんだ！だからお前たちと最後まで戦いたい！」

ステイブ「円堂！・・・俺、間違ってたかもしれない。円堂、本当の勝負だ！」

円堂「ああ、望む所だ！」

ステイブ「クロナ、すまなかった。お前たちをケガさせてしまった！」

クロナ「大丈夫だ。それにあいつと戦ってみろ！円堂と戦つと見た事ない世界が見えるかもしれないぞ！」

ステイブ「見た事ない世界？」

王将「さあ後半が始まります！優勝するのはどっちだ！」



## 第21話 邪悪なる黒き竜 ブラックドラゴン（後書き）

次回予告 ゲオンから解放され、自由になったブラックドラゴンが新たな力をホワイトタイガーに見せてくる。

第22話 決着のとき 白き虎VS黒き竜  
イナズマイレブン

今日の格言

円堂「サッカーボールは人に当てる物じゃないサッカーをやるための物だ！」

## 第22話 決着のとき 白き虎VS黒き竜

王将「カラーアニマルカップ決勝！いよいよ後半戦が始まります！キャプテンクロナが負傷し日本で活躍する雷門のメンバーになったホワイトタイガー、ゲオン監督が連行され自由になったブラックドラゴン、この試合し勝利し頂点に立つのはどっちなのか！？」

ステイブ「（見た事ない世界、それは一体？）」「  
ピイイ

王将「さあ後半戦始まった！」

リコ「ステイブ！」

ステイブ「リュウノアギトV2！」

円堂「ゲートガーディアン！」

パリン

円堂「なっ！？」

ピイイ

王将「ブラックドラゴン、ステイブのシュートで勝ち越した！」

クロナ「ステイブのリュウノアギトが進化した！」

アフロディ「また円堂くんが相手の力を引き出したみたいだ！」

メロディ「また相手の力を引き出した！？でも守くんは仲間の力しか引き出さないじゃ！？」

半田「あいつは敵味方関係無く力を引き出すんだよ。」

神無月「敵味方関係無く！？」

メロディ「またやっぱ守くんはすごい！」

テルリン「でも1点差で負けてるよ！」

ステイブ「俺の技が進化した！もしかして、これが見た事ない世界！？」

クロナ「あいつ、見えたみたいだ。」

円堂「すごいパワーだ！やっぱあいつはすごいぜ！」

豪炎寺「だが、俺たちは負けない！バーニング！」

染岡「キラー！」

ガズリー「ステイプは見た事ない世界が見えた、俺たちも見てみたい。ゴッドフィンガー！」

王将「止めた！ガズリー、新技でバーニングキラーを止めました！」  
豪炎寺、染岡『なに！？』

テルリン「円堂くん、キーパーの力も引き出したみたい！」

ステイプ「もう一発いくぜ！リユウノアギトV2」

円堂「もう点はやらない！ゲートガーディアンV2」

ステイプ「なに！？」

ケイン「円堂のゲートガーディアンも進化した！」

カイン「いいぞ、円堂！」

円堂「いけっ風丸！」

王将「DF風丸、上がっていく。」

風丸「トルネードブロー！」

ガズリー「よし、止められる！」

松野「いただき！」

ガズリー「なに！？」

松野「ホーリーランス！」

ガズリー「ゴッドフィンガー！」

バアン

ガズリー「ああ！」

王将「入った！風丸から松野へのシュートチェインが決まった！ホワイトタイガー、同点だあ！」

円堂「いいぞ、風丸、マックス！」

闇野「いけっマックス、ケルベロスバスター！」

松野「ホーリーランス！」

王将「闇野から松野へのシュートチェインだあ！これは決まったか！？」

ガズリー「ゴッドフィンガーG2！」

神無月「相手のキーパーの技も進化した！」

ステイブ「ナイスだ、ガズリー！」

王将「さあ試合は後半になって激しい展開になってきた！今までのカラーアニマルカップにない試合だあ！」

ステイブ「ハアハア、さすが世界一になったキャプテンだ。」

ガズリー「ステイブ、いくぜ！」

円堂「なに！？」

王将「なんとキーパーガズリーオーバラップ！」

ステイブ「いくぜ円堂！」

ステイブ、ガズリー『ツインヘッドドラゴン！』

王将「これは！！2つの顔のドラゴンがゴールを襲う！」

円堂「ゲートガーディアンV2！」

パリン

円堂「ああ！」

鬼道「うおお！」

ガアン

王将「鬼道がゴールを守った！ブラックドラゴン、ゴールならず！」

円堂「助かったぜ、鬼道！」

鬼道「ああ、だが喜ぶのはまだ早い。」

王将「ブラックドラゴンの攻撃はまだ続く！」

佐久間「これがブラックドラゴンの本当の力なのか！？」

クロナ「俺もステイブたちがここまでやるとは思ってもいなかった。」

王将「ボールはステイブへ！円堂と1対1になった！」

ステイブ「（クロナ、円堂、お前たちが言ってた見た事ない世界の意味がわかったぜ、それは）サッカーが楽しい世界だ！リュウノアギトV3！」

メロディー又「また進化した！」

円堂「ステイブ、お前はすごいぜ！だが、俺も強くなる！ゲートガーディアンV3！」

しゅ〜

ステイブ「あつ！」

木野、音無「やった〜」

ジャンヌ「円堂さん、やはりあなたを選んで正解でした！」

ステイブ「円堂、お前は本当にすごい奴だ！」

王将「ここでロスタイムに入った！先に点を取るのはどのチームなのか！？」

栗松「いくでヤンス！」

ニド、ゴメス、リコ「行かせない！」

円堂「栗松！」

栗松「キャプテン！」

ブラックドラゴン「なに！？」

王将「あ〜と！円堂が上がって来た！残り時間がわずかで円堂も攻撃参加だあ！」

円堂「一之瀬！」

一之瀬、円堂、土門「ザ・フェニックスV3イイイイ！！」

ガズリー「俺たちは負けない！絶対勝つんだ！ゴッドフィンガーアアG3！！うおおお！！」

バアーン

ガズリー「なあっ！！」

ピイイ

王将「入った！一之瀬、円堂、土門の連携技でホワイトタイガーついに勝ち越し！！」

ピイピイピイイ

王将「試合終了！カラーアニマルカップを制したのはホワイトタイガーだあああ！」

ココナ「負けた！」

ステイブ「ああ、だが全然悔しくない、むしろ清々しい気分だ！」

クロナ「ありがとう、円堂！」

円堂「ああ！」

飛行場

クロナ「世話になったな円堂。」

円堂「ああ、またな！」

レジー「俺達に挨拶無しつてのはひどくねえか？」

円堂「レジー、リキット、カロ、ボルグ、ステイブ！」

カロ「僕たちも円堂くんに別れ言いたくてね！」

リキット「来年お前と戦えないかも知れないけど、また戦うのを楽しみにしてる！」

ステイブ「これは俺達と戦った印だ」 円堂「サッカーボール？」

風丸「良く見る全員のメッセージだ！」

円堂「本当だ」

新しい俺達の技を見せてやる ステイブ

暴れ牛の底力を見せてやるぜ レジー

真のサメの恐怖を味あわせてやる ボルグ

お前らの作戦の裏を何回でもかいてやる リキット

君達のシュートを全て弾き返してあげましょう カロ

またサッカーやろうぜ！！円堂！！！！ メンバーより

円堂「ありがとうみんな！」

ステイブ「円堂、俺達は新たな一步を踏み出す、そして本当の栄光を手に入れる。」

円堂「頑張れよ！」

ゴオーツ

クロナ「行つたな。」

ステイブ「ああ、クロナ、来年は本当の勝負をしようぜ」

クロナ「そうと決まれば早速特訓だ！」

レジー「円堂の特訓癖が移ったか？」

クロナ「ククツ、かもな」

ニュージランドでの戦いは終わった

だが、円堂はこれから起こる出来事をまだ……知らない

## 第22話 決着のとき 白き虎VS黒き竜（後書き）

次回予告 ニュージーランドから帰ってきた俺達、あれ？このメン  
バーは！！

第23話 未来の戦士 再集結

イナズマイレブン

今日の格言

ステイプ「俺達は新たな一歩を踏み出す！そして本当の栄光を手  
に入れる。」

オリキャラ設定・・・？

ロン・スコピオンパート2

かつて円堂と死闘を繰り広げた元ダークマップのキャプテン！今は生まれ変わったチーム、キングワールズのキャプテン！円堂と共に未来を救いに行く！

ポジション FW MF

必殺技 キングダムブレード、キングダムブレードV2、キングダムブレードV3、ナックルバースト、チェックメイト

ロディ・ポールド

特徴髪型と色は赤いショートヘア

イナズマ王国の元王子 サッカーチームに所属していたが自己中心のメンバーに嫌気が差し、チームを解散させる

父親であるルイ大王の気まぐれにも嫌気が差し、家出して、港で趣味である釣りをしながら生活している

年齢 14歳

必殺技 グリフオンスピアー、グリフオンスピアー改、真グリフオンスピアー、パーフェクトスマッシュ

ザンデ・ミスリル

未来のイナズマ王国の支配者、ヒビキ提督に使われるジェネラルのキャプテン、バッド率いるオーガを圧倒的な力で上回る

ポジション FW

必殺技 閻魔の裁き



## 第23話 未来の戦士 再集結

ニュージールランドから戻って一週間後

風丸「トルネードブロー！」

円堂「ゲートガーディアンV3！」

しゅー

久遠「響木さん、円堂、私たちが見ない間にまた力を身に付けたようですね。」

響木「そうだな。だが円堂だけじゃない、あいつらも進化している。」

ー

壁山「キャプテン、ゴールを守るとき輝いてるツス。」

栗松「本当、輝いて……って！光ってるでヤンス！！」

円堂「なんだ！？」

???「付いた！」

円堂「誰だ！？」

???「はじめまして、ひいじいちゃん。」

円堂「ひっ！ひいじいちゃん！？」

メロディー「てことは、守くんのひ孫って事！？」

音無「まさか、そんな事って！」

???「俺、円堂カノン！」

神無月「名字は一緒のようだけど。ひ孫って事は、未来から来たって事？」

カノン「そう、俺、未来から来たんだ！その証拠はコレ！」

木野「なにそれ？」

一之瀬「なんかの古いノートのようなけど。」

円堂「それは！じいちゃんの秘伝書！」

神無月「なんであなたがコレを！？」

カノン「俺もサッカーやってるからだ！」

豪炎寺「その未来から来たお前がなぜここに来たんだ！」

カノン「あつ！そうだった、じつはひいじいちゃんたちに未来に来てほしいんだ！」

夏未「円堂くんたち？場所はどこのの？」

カノン「未来のイナズマ王国。」

円堂「神無月『イナズマ王国！』」

木野「それって、真実の石版で行ったって。」

カノン「悪人はイナズマ王国を攻めてサッカーを戦闘の武器にするんだ！過去のイナズマ王国を救った戦士が未来でも有名だから一緒に救ってほしいんだ！」

円堂「……わかった！」

カノン「本当！？ひいじいちゃん！」

円堂「ああ、サッカーは戦闘の武器じゃないって事教えてやるぜ！」

鬼道「未来の戦士と言うと佐久間に虎丸、アフロディたちだな。」

木野「円堂くん、私たちも行くわ！」

円堂「えっ！？」

冬花「マネージャーのサポートも必要になるから。」

神無月「私も行く！私も過去に行った事あるから。」

メロディー「愛や守くんが行くならミーも！」

円堂「ありがとう、みんな！」

豪炎寺「早速イナズマ王国を救ったメンバーを集めるか。」

かしかの森

飛鷹「過去のイナズマ王国を救ったメンバーが再び集結するとはな。」

「

ヒロト「円堂くんのひ孫が来るとは、すごい事が起こるんだね。」

カノン「みんな集まったね。では、未来へ出発！」

キラーン

一方未来のイナズマ王国

ヒビキ提督「1人のガキが戦士を集めてるそうだな！」

部下A「どういたしましたよう？」

ヒビキ提督「今はほっておけ、好きにさせろ。」

部下A「はっ！」

そして円堂たち

円堂「付いた！のか！？」

テルリン「未来にちゃ、なんかヘンだわ！」

カノン「ごめん、間違えて過去に来ちゃった！」

ヘラ「なんだと！じゃあタイムスリップは？」カノン「失敗しちゃった！」

寺門「失敗したならもう1回だ！」

カノン「それはムリだ！」

神無月「なんで？」

カノン「バッテリーが切れたんだ！」

円堂「それじゃあ、俺たちは帰れないって事か！？」

カノン「大丈夫、自然に充電出来るから。」

木野「良かった。」

カノン「でも、充電出来るまで3日はかかる」

戦士「3日！！！」

デメテル「そもそもここはどの時代だ？」

カノン「ひいじいちゃんたちがダークマップに勝利して4ヶ月後の時代だよ。」

円堂「そうだ！ロンだ！」

夏末「ロンって、ダークマップのキャプテンだった。」

円堂「ああ、ロンを仲間にすれば！」

神無月「なんか心強そう！」

円堂「どうせ3日はかかるし、何もしないほうよりマシだよ。」

鬼道「そうだな。だったら言ってみるか、イナズマ王国の城へ」

イナズマ王国の城

兵士「あつ、エミリア姫様！」

エミリア姫「どうしました？」

兵士「懐かしの人が来ました！」

エミリア姫「懐かしの人？誰かしら？……あつ！」

円堂「こんにちは、エミリア姫。」

木野「あの人がエミリア姫！」

エミリア姫「円堂さん、皆さん！なぜここに！？」

円堂たちはエミリア姫に訳を話した

エミリア姫「じゃあ、カノンさんは円堂さんのひ孫で未来に行くつもりが間違えてこの時代に来た訳ですね。」

円堂「はい、だからロンを仲間にするためにここに来ました！」

エミリア姫「そうですか、キングワールズのメンバーはお城の裏にいます。」

鬼道「キングワールズ？」

エミリア姫「ロンさんたちがやり直したいとみんなで考えた新たなチーム名です。」

城の裏

神無月「お城の裏にマンションが建ってる！」

エミリア姫「お父さまがロンさんたちに酷い事したお詫びにマンションを建てたんです。奥に練習グランドもあります。」

虎丸「練習グランドまであるんですか！」

練習グランド

ロン「そりゃ！」

ゲープ「ああっ！」

レノン「ナイスシュート！」

ロン「おうっ！……」

ゲープ「やはり忘れられないんだな、円堂の事が。」

ロン「ああ。」

カン「でも俺たちとあいつの時代は違うからな。」ロン「確かに住む時代が違う、だが、エミリア姫が言ってたんだ。」

3ヶ月前 中庭

ロン「……」

エミリア姫「円堂さんの事が忘れられないのですね。」

ロン「エミリア姫！」

エミリア姫「あの時はこの真実の石版で呼びましたね。」

ロン「俺、サッカーやってるとあいつを思い出します。本当のサッカーを思い出させくれたのは、円堂でした。だが、俺の本当のサッカーは何なのか忘れてしまった。もうあいつには会えないのかな。」

エミリア姫「それはわかりません、時代は違うかもしれませんが。でも、気持ちがかもっていれば願いは叶う物です。」

そして現在

カン「エミリア姫らしい説得だな。」

円堂「ロ〜ン！」

ロン「ん！？気のせいか！？今円堂の声が。」

円堂「ロ〜ン！おい！」

ロン「えっ、円堂！お前なのか！」

円堂「ああ、俺だよ。」

ピート「未来の戦士のメンバーもいるぞ！」

デИБ「女子もたくさんいる、マネージャーかな。」

円堂「ロンに頼みがあつてここ来たんだ。」

ロン「俺に頼み？」

円堂はロンに頼みと訳を話した

ロン「未来を救うために俺を仲間にするためにここに来たのか！」

円堂「あの時のお前のシュート、すごかったからな、きつと力なると思っただ。」

ロン「・・・わかった！俺も行くぜ！」

円堂「本当か！？」

ロン「ただし、条件がある！」

神無月「条件？」

ロン「俺たちキングワールズと勝負だ！」戦士たち『！！！』

鬼道「お前たちと試合を！」

ロン「ああ、俺たちもうダークマッブじゃない、だからお前たちに生まれ変わったお前たちを見せてやるぜ！」

円堂「わかった！その勝負受けて立つ！」

ロン「そうこなくちゃ。」

円堂「俺たちが勝ったら仲間になるんだな！」

ロン「ああ、なるぜ！場所は俺たちとお前たちと戦ったイナズマス  
タジアムだ！」

音無「なんかすごい事になりそうですね！」

ロン「そうと決まれば、早速イナズマスタジアムに行くぜ！」

イナズマスタジアム

冬花「ここがイナズマスタジアム、観客もたくさんいますね。」

メロディーヌ「愛はここに入っただよね。」

神無月「うん。」

ジュリー「さあイナズマ王国の皆さん！この試合はなんと！元ダー  
クマップであるキングワールズ、対戦相手わが国を救った円堂くん  
率いる未来の戦士です！」

ルイ大王「まさか円堂くんたちに再び会えるとは。」

エミリア姫「お父さま。」

神無月「ルイ大王様、お久しぶりです。」

木野「あの人がルイ大王！」

音無「キャプテンとお兄ちゃんの話でとても気まぐれな王様って人  
ですね。」

エミリア姫「最近お父さまは気まぐれじゃなくなっただです。」

ルイ大王「私の気まぐれのせいでこうなったのだからな。」

ジュリー「さあまもなく試合がはじまります！」円堂とロンの試合  
が再び始まった。円堂たちはこの試合に勝ってロンを仲間入り出来  
るのか！

## 第23話 未来の戦士 再集結（後書き）

次回予告 ロンと再び激突 キングワールズの力とは

第24話 再激突 円堂VSロン

イナズマイレブン

今日の格言

エミリア姫「気持ちがいれば願いは叶う物」

## 第24話 再激突 円堂VSロン

円堂のひ孫、カノンに未来を救う事になった円堂たち。しかし間違えて過去に来てしまったが、ロンを仲間にするために試合をする事になった

豪炎寺「円堂、ロンと試合をするの久しぶりだな。」

円堂「ああ、あいつらがどんなサッカーするのか楽しみだぜ！」

未来の戦士

F W

豪炎寺

虎丸

デメテル

M F

ヒロト

アフロディ

鬼道

佐久間

D F

ヘラ

飛鷹

寺門

G K

円堂

キングワールズ

F W

レノン 1 1

ロン 1 0

ライン 9

M F



ワイルズ 8

ジェイ 7

ディブ 6

D F

ピート 5

カン 4

バクラー 3

ケイン 2

G K

ゲープ 1

ジュリー「キャプテン円堂とロンの戦いが再びやってきた!どこのよ  
うな試合が繰り広げられるのでしょうか!」

ピイイ

ジュリー「試合が始まりました!」

ヒロト「虎丸くん!」

ワイルズ「いただき!」

バシッ

ヒロト、虎丸『あっ!』

ワイルズ「ロン、いけ!」

ロン「いくぞ円堂、これが生まれ変わった俺の必殺技だ!

キングダムブレード!」

円堂「マジン・ザ・ハンド!ぐあ!」

ピイイ

ジュリー「ゴール!ロンくんの必殺技、キングダムブレードが決ま  
りました!」

ロン「よっしゃ、決まった!」

円堂「これが、ロンの新しい力なのか!」

ジュリー「1点取られた未来の戦士、反撃なるか。」

円堂「なんだ!」

ジュリー「これは!キングワールズ正面をあけました!」

ゲープ「こい、イナズマブレイク！」

鬼道「そういう事が、円堂、豪炎寺いくぞ！」

ジュリー「この体勢は！ゲープくんから1点取ったイナズマブレイクの体勢です！」

鬼道「イナズマブレイクV2」

ゲープ「聖なる神殿！」

ガン

鬼道、円堂、豪炎寺『なに！！』

ジュリー「イナズマブレイクを止めました！」

神無月「イナズマブレイクを止めるなんて！」

木野「始めからイナズマブレイクを止める自信があつたのね！」

ロン「どうだ、円堂。俺たちはあの時から強くなった。だから全力でお前たちに勝つ！」

円堂「ああ、望む所だ！」

ジュリー「未来の戦士対キングワールズの試合は思わぬ展開になりました！」

ライン「俺もいるぞ！ジャンピングキック！」

円堂「ブレイク・ザ・ハンド！」

バーン

ロン「円堂の新技か。やるな。」

冬花「神無月さん、ロンくんたちあんな風だったんですか？」

神無月「ううん、ダークマッパの時は憎しみを抱えてサッカーをやつてたの。円堂くんとサッカーをやってからあんなに楽しんだの。」

ー

豪炎寺「バーニングサイクロン！」

ゲープ「聖なる神殿！」

ガン

ジュリー「豪炎寺くんも新技を出した！しかし聖なる神殿破れず！」「  
ピイピイイ

ジュリー「ここで前半終了です。」

鬼道「ダークマップの時より強くなってるな。」

アフロディ「しかしこの試合に勝たないとロンは仲間にできないよ。」

円堂「大丈夫、次は止めてみせる！」

テルリン「後半で勝てるかな!？」

木野「大丈夫よ、円堂くんはこのくらいで終わらないから。」

ピイイ

ジュリー「後半戦スタートです！」

ピート「レノン！」

レノン「任せろ！」

飛鷹「行かすか!真空魔V3!アフロディ！」

アフロディ「真へブンスタイム。」

ディブ、バクラー『うあ!』

虎丸「アフロディさん！」

アフロディ「虎丸くん！」

虎丸「グラディウスアーチ！」

ゲープ「聖なる神殿！」

ガン

ゲープ「さあ追加点だ！」

ロン「いるぞ!キングダムブレード！」

円堂「成長したなロン、でも、未来を救うために俺たちも負けられないぜ！」

マジン・ザ・ハンド改！」

しゅ

ロン「なに!進化した！」

円堂「鬼道、豪炎寺！」

ジュリー「またイナズマブレイクを撃つのか!？」

ゲープ「任せろ！」

鬼道「イナズマブレイクV3！」

ゲープ「聖なる神殿！」

ピキッピキピキ

ロン「なっ！！女神の加護を受けし神殿がつ！！！」  
パライイイイン！

ゲープ「うわあっ！！！」

ジュリー「ゴール！聖なる神殿敗れる！未来の戦士、同点です！」  
ゲープ「まさか聖なる神殿を破るとは！」

ロン「円堂が進化するとチームメイトも進化するのか、俺もあいつ  
といっしょにサッカーするとうなるんだろうな。」

メロディーヌ「イナズマブレイクも進化した！すごいよ。」

豪炎寺、虎丸、ヒロト『グランドファイアG3！』

ゲープ「前よりパワーアップしてる！だったら、はああ！」  
バシッ

ゲープ「ぐあ！」

ロン「うおお！」

ガン

ピイイ

ジュリー「ロンくん、ゴールを守りました！」

ゲープ「ロン、助かったぜ。」

ロン「あの技を使うつもりだったのか？」

ゲープ「だが失敗だ。」

ロン「失敗してもいい、自信を持って！」

ゲープ「ああ！」

鬼道「ゲープ、今何かしようとしてた、しかし失敗だったがな。」

ジュリー「キングワールズのスローイングで試合再開です！」

ロン「レノン、ライン、あの技でいくぞ！」

ライン、レノン『おお！』

ロン、レノン、ライン『チェックメイト！』

神無月「なに、あの技！？」

テルリン「なんかすごい！」

円堂「すごい技だ！でも、止めてみせる！」

ゴッドキャッチG4！」

しゅ〜

ロン、レノン、ライン『なに〜！』

ジュリー「なんと円堂くん、チエックメイトを止めました！」

ロン「バカな！俺たち最強の必殺技だったのに！」

エミリア姫「すつ、すごい！チエックメイトを止めるなんて！」

ジュリー「残り時間は2分を切った！」

円堂「さあみんな、最後の攻撃だ！」

ジュリー「円堂くんオーバールアップ、この攻撃が決勝点のチャンスとなるのか！？」

円堂「いくぞ、豪炎寺、虎丸！」

円堂、豪炎寺、虎丸『ジェットストリーム！』

ロン「なんだ！この技は！？」

ゲープ「はああ！止める、うおお！うつ、うわあっ！」  
ピイ

ジュリー「ゴール！入りました、未来の戦士、勝ち越し！」

ピイピイピイ

ジュリー「試合終了！未来の戦士が勝ちました！」

カノン「すごい試合だったな。」

円堂「ロン、楽しかったぜ。」

ロン「俺もだ。」

円堂「俺たちの仲間になってくれるか！？」

ゲープ「行けよ、ロン。はじめから仲間なるつもりだったんだろ。」

円堂「そうなのか！？」

ロン「まっ、そんなとこだな。これからよろしく、円堂。」

円堂「よろしくな、ロン」

ピート「ところで、未来を襲った奴らはどんな奴らだ？」

カノン「噂によると、オーガをも超える最凶のチームだ」

ルイ大王「最凶のチーム！」

ロン「今の人数じゃ、たりないかもな。」

エミリア姫「カノンさん、これは正式試合ではないんですよね？」

カノン「はい。」

エミリア姫「でしたら、2チームの人数で行くのはどうですか!？」

寺門「それは名案ですね。」

音無「今の人数は13人だから、後9人ですね。」

エミリア姫「8人です。」

音無「えっ!？」

エミリア姫「1人はすでに決めています。」

夏未「でも後8人はどうするんですか？」

鬼道「この時代にすごいプレイヤーがいるんですか？」

エミリア姫「いいえ、後の8人は円堂さんたちの時代からです。」

円堂「ええ!」

佐久間「でもどうやって?カノンのマシンはバッテリー切れですし。」

エミリア姫「私に任せて下さい。」

## 第24話 再激突 円堂VSロン（後書き）

次回予告 エミリア姫のアイデアとは！？  
なっ！！おまえらは！

次回

第25話 集いし新たなる戦士！！

イナズマイレブン

今日の格言

ロン「失敗してもいい、自信を持て！」

## 第25話 集いし新たなる戦士

中庭

円堂「そうか、真実の石版でいっしょに戦ってくれる人を呼ぶのか。」

メロディーヌ「愛と守くんもこれに吸い込まれてここに来たんだね。」

エミリア姫「では、円堂さんとサッカーやってくれる方を呼びます。真実の石版、どうか私のお願いを聞いて下さい。」

現在 河川敷のグラウンド

風丸「円堂たち、今頃未来で頑張ってるだろうな。」

染岡「ああ、そうだな！だが、俺たちに力があれば円堂と共に戦えただろうな。」

風丸「染岡、もう力にこだわるはやめようぜ。」

染岡「えっ!？」

風丸「力を求めすぎたせいで、ダークエンペラーズなってしまったんだ。」

染岡「そうだったな、もう助ければなしごめんだぜ。」

ピロロロン

風丸「んっ?メールだ。」

染岡「俺のも鳴ってる!なんだこれは?」

風丸「矢印が出る、コレをたどって行けって事か。」

5分後

風丸「この先かしかの森だぞ。」

染岡「てことは、円堂が言ってた真実の石版がある森か!？」

壁山「風丸さん、染岡さん!どうしたんツスか?」

風丸「壁山!お前も考え!？」

壁山「はいッス、変なメールが届いて矢印どうりに進んだらここに」  
吹雪「君たちも来たの?」



染岡「吹雪！？なんでお前が！」

吹雪「携帯に変なメールが入って、白恋中の裏に変な光があったんだ、それに触れたて気がついたらここに。」

不動「俺たちもだ！」

源田「変わったメールだな。」

染岡「不動、源田！」

南雲「なんだ？お前らもか？」

涼野「この森にこんな所があったんだな。」

風丸「南雲に涼野！お前たちにもメールが！？」

コオオオオ

涼野「なんだあれは！？」

風丸「まさかあれが、真実の石版！？」

スウウウ

染岡「な、なんだ！？吸い込まれるぞ！」

風丸たち『うわあああ！！』

染岡「なんだここは！？」

壁山「まさか、ここがキャプテンが言ってたイナズマ王国ツスか！

？」

源田「佐久間たちも言ってたな。」

ピロロロン

吹雪「またメールだ！」

不動「矢印がああ城にさしてるぜ。」

風丸「行ってみるか。」

兵士「何者だ！」

涼野「道に迷った者です。気がついたらここに。」

兵士「……………わかった、通るがよい。」

南雲「ほお、いい城だな。」

染岡「だが、城に入って何があるんだ。」

円堂「染岡！」

染岡「えっ！？円堂！」

鬼道「源田、不動も選ばれたのか。」

ヒロト「涼野に南雲も来たんだね。」

豪炎寺「風丸、壁山、よく来たな。」

アフロディ「吹雪くん、また会ったね。」

風丸「選ばれたってどうゆう事だ？」

エミリア姫「私が話します。」

吹雪「あなたは？」

神無月「このイナズマ王国の姫、エミリア姫よ。」

風丸たち「姫！？」

染岡「それはそうと円堂、お前ら未来に行ったんじゃない？」

カノン「タイムスリップ失敗したんだ。」

エミリア姫「後は私が話します」エミリア姫は新たな戦士に話した

吹雪「僕たちがキャプテンたちと未来を救いに行く仲間にするため呼んだんですね。」

エミリア姫「はい、そうです。」

鬼道「これで21人揃いました、後1人は誰ですか？」

エミリア姫「港にいます。」

戦士「港！？」

イナズマ港

エミリア姫「あそこにいます。」

円堂「あの釣りをしてる奴ですか？」

エミリア姫「はい、あの子はロディ、私の弟です。」

円堂たち「弟！！？」

木野「って事は。」

円堂たち「王子様！」

夏末「でも王子様なのに、なんでここで釣りをしてるんですか？」

エミリア姫「それは5ヶ月前のことです。」

#### 5ヶ月前

ロディ「何やってんだ！こっちに回せ。」

仲間A「それ、シュート！」

ロディ「みんな、戻れ！」

試合終了後

ロディ「なぜみんな勝手に動くんだった！バラバラにサッカーやるから負けたじゃないか！」

仲間A「そうカッカすんなよ、俺達は自分が好きにできれば良いんだよ」

仲間B「勝ちたきゃ自分でチーム作れよ」

ロディ「もういい！！お前らのような自己中な奴らとサッカーできるか！解散だ！」

現在

エミリア姫「それ以来ロディは他人を信じれなくなりました。」  
円堂「そうだったんだ。」

エミリア姫「そしてその後です。」

- - - - 5ヶ月前

ルイ大王「そうだ！イナズマノ森の木を切り倒して、広場を作ろう！」

ロディ「しかし父上！そんな事をすれば空気が汚染おせんされ体調を崩す者が増えてしまいます！」

ルイ大王「五月蠅いぞ（うるさい）ロディ！！ワシが決めた事に口出しするな！」

ロディ「チツ！」

バサッ

ルイ大王「うぷっ

ロディ！！」

ロディ「アンタの気まぐれにはもう、うんざりだ！！

俺はこの国を出させてもらう！

あばよ！」

エミリア姫「ちょっと！ロディ！！」

現在

冬花「でもなんで港に住み始めたんですか？」

エミリア姫「ここは、ロディの釣りスポットだからです。5ヶ月立つてもロディは帰って来ませんでした。」

虎丸「相当ルイ大王の気まぐれと自己中なメンバーにうんざりしてたんですね。」

エミリア姫「だから、ロンさんの心を変えた円堂さんならロディの心変えられると思ってんです。」

鬼道「なるほど、それで最後の1人はロディに決めていたんですね。」

ロン「それは俺も納得いくな。」

円堂「ロディもサッカー好きなんですね。」

エミリア姫「はい。」

円堂「任せて下さい！おゝい！」

ロディ「誰だ、アンタ。」

円堂「俺、円堂 守、キミロディだよな！」

ロディ「そうだよ、んで何の用だ？」

円堂「いっしょにサッカーやらないか!？」

ロディ「やだ！俺はもう他人とサッカーはやらない。お前らの用な自己中な奴らとやれるか。」

エミリア姫「それは違うわ、ロディ。」

ロディ「姉さん！」

エミリア姫「彼ら未来から来たチームワーク抜群の方たちよ。」

ロディ「そっぴいや聞いたな、4ヶ月前ダークマップを倒しイナズマ王国を救った未来人がな。それがお前らってわけか。」

エミリア姫「この方たちは未来を救いに行くために戦うの、そこでロディ、あなたの力が必要なの。」

ロディ「はあ？俺の力が必要だと！」

バカも休み休み言え！俺は二度と他人とサッカーはやらん!!」

不動「ケツ！とか言いながら本当は自分に自信がネーソジャねーのかあ？」

ロディ「ンだとゴラア！」

良いぜ！やってやろうじゃねえか！

その代わり勝負だ！」

不動「円堂、後はお前に任せるぜ。」

ロディ「なんだ？お前がやるんじゃねーのか？

まあいい、勝負方法はPK一本勝負だ、お互いに必殺技は有りとする」

エミリア姫「大丈夫でしょうか？円堂さん。」

不動「まっ、大丈夫だろ。あいつだったたら心配いらねーからな。」

ロディ「いくぞ！グリフォンスピアー！」

源田「なんだあのシュートは！？」

吹雪「すごいパワーだ！」

円堂「ゲートガーディアンV3！うおおお！」

しゅ

ロディ「なに！」

壁山「キャプテンの勝ちッス！」

佐久間「勝負ありだな。」

ロディ「くそ！」

エミリア姫「ロディ、約束よ。」

ロディ「わかった、だがそれでも俺は仲間を信じない。」

寺門「頑固な奴だ。」

染岡「そっだ！円堂、試合で信頼させるのはどうだ？」

円堂「そうか、信頼は共に戦う事だ！」

ロン「最初の戦士対後から仲間になった戦士との試合だな！俺も賛成だ！」

エミリア姫「わかりました、では明日イナズマスタジアムで行います。」

メロディーヌ「ウォー！戦士同時の激突、楽しみだね。」

## 第25話 集いし新たなる戦士（後書き）

次回予告 戦士同時の試合が激突する。ロディは信頼を取り戻せる事ができるのか！？

第26話 みんなの熱き想い、揺れるロディの心！

イナズマイレブン、今日の格言！

円堂「信頼は共に戦う事だ！」

以上！

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n6641v/>

---

イナズマ11

2011年11月17日19時52分発行